



プリアンプ

C-5000

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- ◆ 本機は、高音質なステレオ再生をご家庭で楽しむためのプリアンプです。
- ◆ 本説明書では、本機を使用する方のために、機能や接続方法、操作方法などを説明しています。
- ◆ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書および「安全上のご注意」（別冊）をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

保証書別添付

- ◆ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。



本書は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

<https://download.yamaha.com/>

本機の特長

- ◆ ブックマッチ構造による L/R 完全対象設計
- ◆ 入力から出力まで、A 級動作でのフルバランス伝送（フローティング&バランス）
- ◆ バランス入力を備えた、フローティング&バランスフォノ EQ アンプ
- ◆ オリジナルのベアリング構造を用いた高精度な操作子と高剛性のレバースイッチ
- ◆ オーディオ専用のツイントランスを搭載し、コントロール電源から完全分離
- ◆ メカニカルアース構造による振動の安定化
- ◆ パラレルボリューム方式トーンコントロール回路
- ◆ 新設計の真鍮製スパイクレッグ
- ◆ ボリュームの微調整を可能にするゲインコントロール機能

本書の記載について

- ◆ 本書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- ◆ 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ◆ 「 **警告**」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される情報です。
- ◆ 「 **注意**」は、傷害を負う可能性が想定される情報です。
- ◆ 「**注意**」は、製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐための情報です。
- ◆ 「**メモ**」は、製品についての補足情報です。
- ◆ 本機をご使用になる前に、別冊の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

目次

本機の特長	2
本書の記載について	2
付属品	4
お手入れ	4
本体側面の鏡面部	4
鏡面部以外	4

各部の名称と機能

フロントパネル	6
リアパネル	10
バランス接続とアンバランス接続	14
リモコン	16
リモコンに電池を入れる	18
リモコンを使う	18

接続

外部機器の接続	20
ターンテーブルの接続	22
録音機器の接続	22
他のプリアンプの接続	23
パワーアンプやアクティブサブウー ファアの接続	23
トリガー接続	24
パワーアンプなどの電源を本機と 連動させる	24
AV レシーバーなどから本機を 連動させる	24
リモート接続	25
別の部屋から本機を操作する	25
ヤマハ製機器間でリモート接続する	25
電源コードの接続	26

操作

電源を入れる	28
入出力を選択する	28
EXT. IN 端子入力を選択	29
ターンテーブルの入力を調節する	29
PHONO セレクター	29
サブソニックフィルター	30
音量を調節する	30
一時的に音を下げる	31
音色を調整する	31
ヘッドホンを接続する	32

資料

一般仕様	34
ブロックダイヤグラム	36
音響特性	37
周波数特性（トーンコントロール）	37
全高調波歪率（PHONO）	37
周波数特性（サブソニックフィルター）	38
ボリュームカーブ	38
困ったときは	39
索引	41

付属品

同梱されている付属品をご確認ください。

- ・ リモコン
- ・ 単4乾電池（2本）
- ・ 電源コード
- ・ 取扱説明書（本書）
- ・ 安全上のご注意（別冊）



警告

付属の電源コードをほかの機器に使用しないでください。

お手入れ

本機を長くお使いいただくために定期的にお手入れすることをおすすめします。



警告

- ・ 電源プラグを定期的を確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取ってください。火災または感電の原因になります。
- ・ 清掃用や潤滑用などの可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。可燃性ガスが本機の内部に留まり、爆発や火災が発生するおそれがあります。

注意

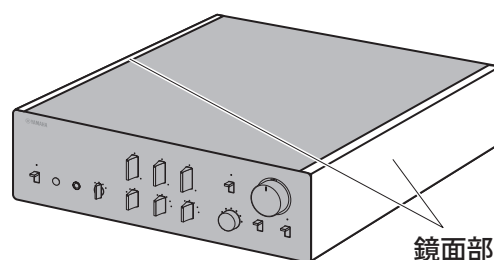
- ・ 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色／変質する原因になります。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。
- ・ ヤマハロゴ付近を強く拭くと、剥がれたり、布の毛が付着することがあります。

本体側面の鏡面部

ピアノ用クリーニングクロスのご使用をおすすめします。汚れがひどいときは、水に濡らして固く絞った柔らかい布をご使用ください。

鏡面部以外

柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

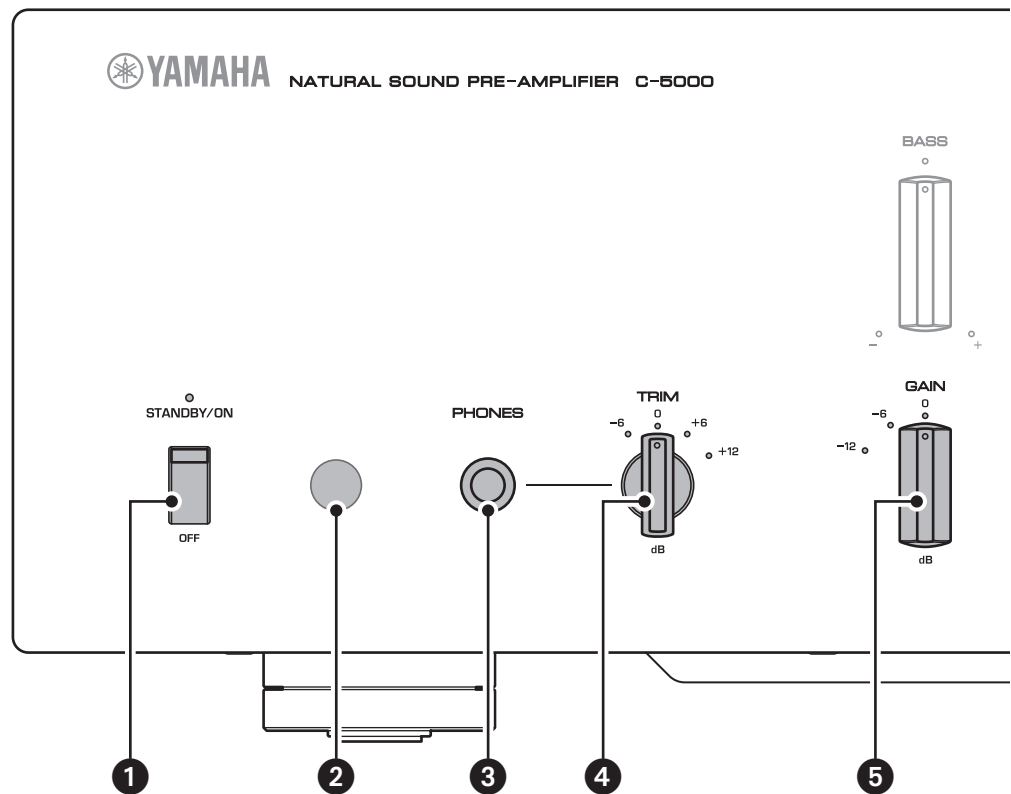


各部の名称と機能

この章では、フロントパネル、リアパネル、リモコンの各部の名称および機能について説明します。

C-5000

フロントパネル



① スタンバイ オン オフ STANDBY/ON/OFF (電源) スイッチ / インジケータ

本機の電源のオン(スタンバイ)とオフを切り替えます。

スタンバイ オン
STANDBY/ON: リモコンの AMP キーでスタンバイとオンを切り替えます。

OFF: 本機をオフにします。

電源の状態	インジケータ
オン	点灯
スタンバイ	暗い点灯
オフ	消灯

リモコンの AMP キーを押す以外にスタンバイになるのは以下の場合です。

- ・オートスタンバイ機能がオンの場合に 8 時間操作しなかったとき
- ・本機の TRIGGER IN 端子にトリガー接続している機器がオフしたとき

詳細については、「リアパネル」の ⑰「AUTO POWER STANDBY スイッチ」(13 ページ) および「トリガー接続」(24 ページ) を参照してください。

メモ

本機の電源を ON にしてから音声再生されるまでに数秒かかります。

注意

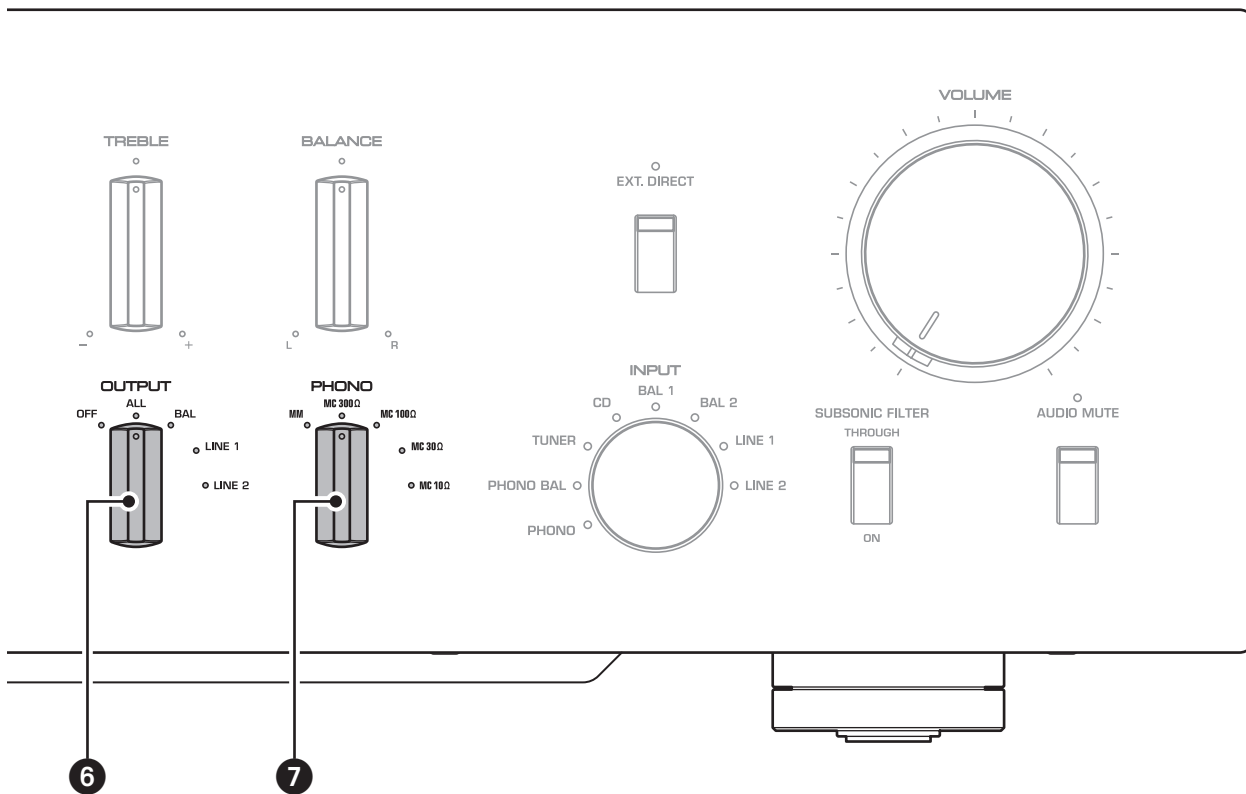
この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。STANDBY/ON/OFF (電源) スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微小電流が流れています。

② リモコン受光部

リモコンの信号を受信します。詳細は「リモコンを使う」(18 ページ) を参照してください。

③ フォンス PHONES 端子

ヘッドホン接続して音楽を聴きます。詳細は「ヘッドホン接続する」(32 ページ) を参照してください。



4 トリム TRIM セレクター

ヘッドホンアンプのゲインを切り替えます。PHONES 端子から出力する音声とスピーカーから出力する音声の音量バランスを調節します。

選択できるゲイン：- 6dB、0dB、+ 6dB、+ 12dB

5 ゲイン GAIN セレクター

プリアンプのゲインを切り替えます。パワーアンプのゲインやスピーカーの能率に対応し、よりきめ細かく音量調節ができるようになります。詳細は「音量を調節する」(30 ページ) を参照してください。

選択できるゲイン：- 12dB、- 6dB、0dB

6 アウトプット OUTPUT セレクター

出力する OUTPUT 端子を次の表のように切り替えます。

複数の種類のパワーアンプを接続している場合に使用します。

	OUTPUT セレクター				
	OFF	ALL	BAL	LINE1	LINE2
BAL 端子	—	出力	出力	—	—
LINE 1 端子	—	出力	—	出力	—
LINE 2 端子	—	出力	—	—	出力

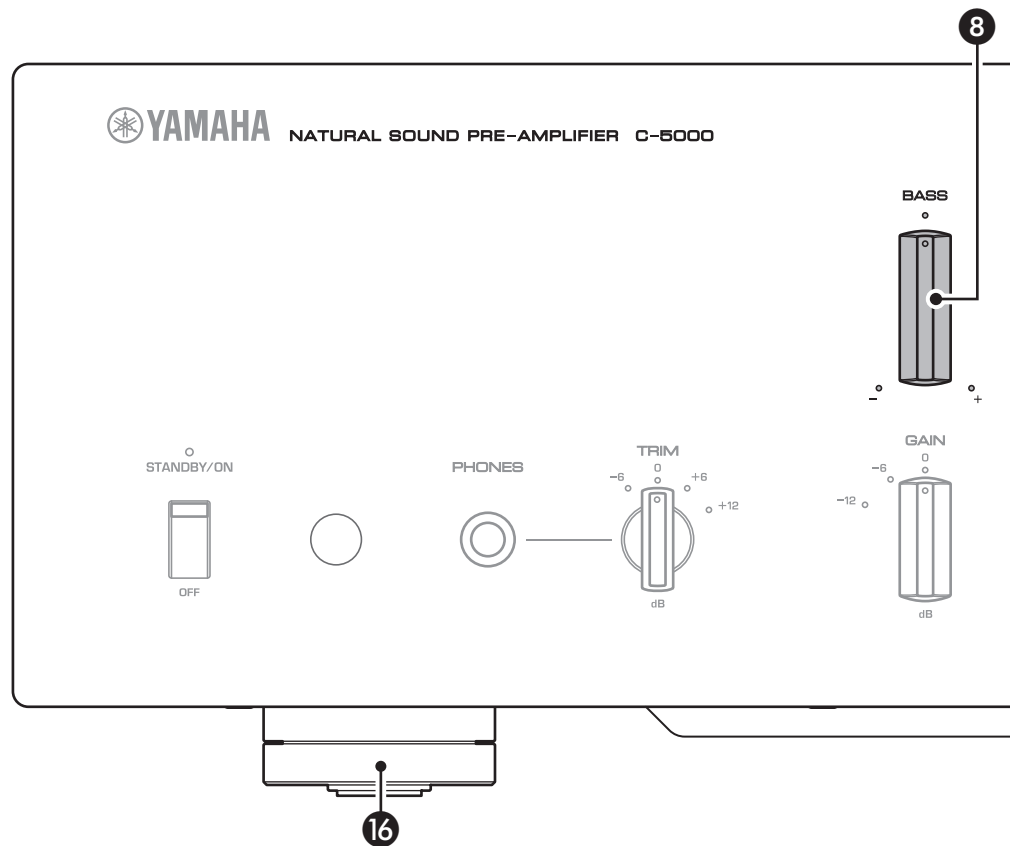
7 フォノ PHONO セレクター

リアパネルの PHONO 端子に接続したターンテーブルに装着しているフォノカートリッジの種類 (MM、MC 300Ω、MC 100Ω、MC 30Ω、MC 10Ω) を選択します。詳細は「ターンテーブルの入力を調節する」(29 ページ) を参照してください。

注意

カートリッジを交換する際は、本機の電源を必ずオフにしてください。

フロントパネル



8 バス BASS (低音) つまみ

低音特性を、 $-10\text{dB} \sim +10\text{dB}$ の範囲(0.5dB 単位)で調節します。中央の位置でフラットになります。

9 トレブル TREBLE (高音) つまみ

高音特性を、 $-10\text{dB} \sim +10\text{dB}$ の範囲(0.5dB 単位)で調節します。中央の位置でフラットになります。

10 バランス BALANCE つまみ

左右のスピーカーのオーディオ出力バランスをL(右チャンネルミュート)～R(左チャンネルミュート)の範囲で調整します。スピーカーの位置や室内の条件による音のアンバランスを補正します。

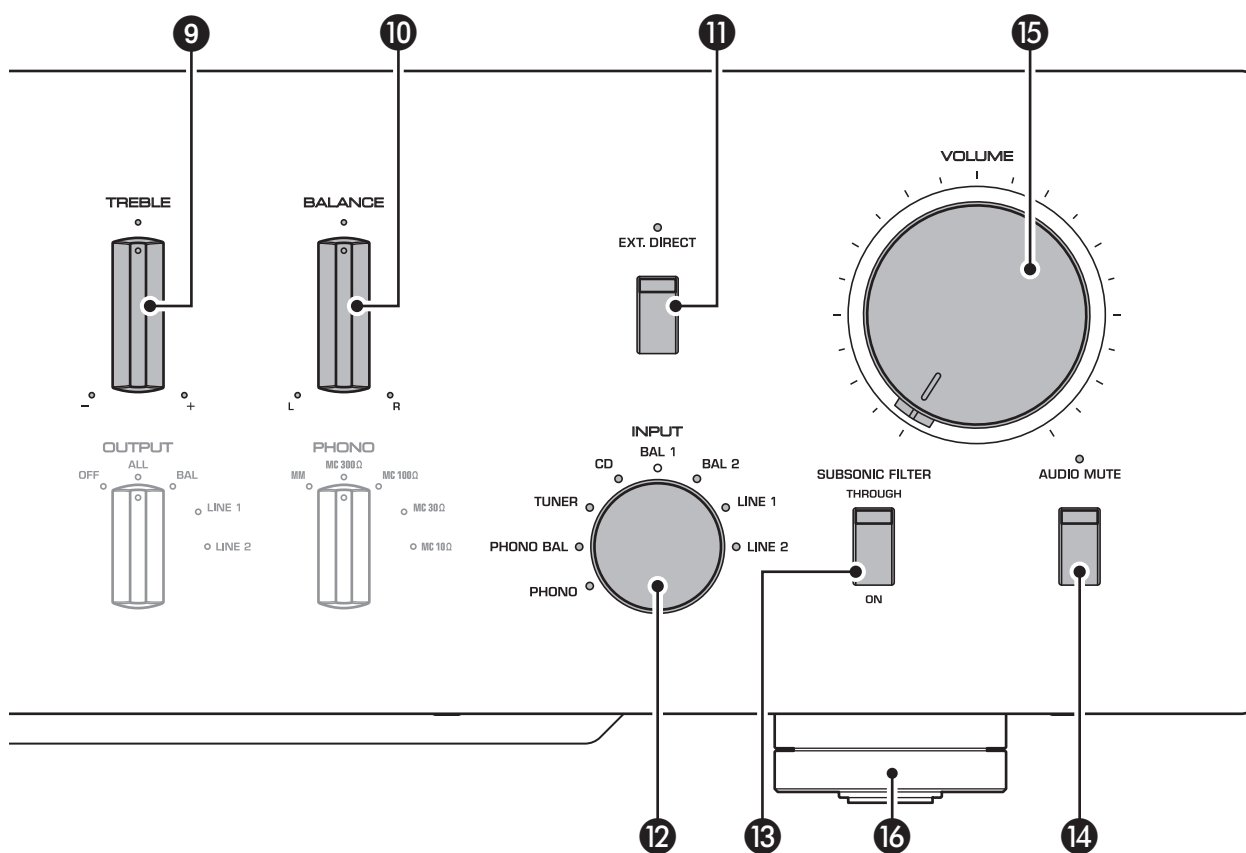
11 エクスターナルダイレクト EXT. DIRECT スイッチ / インジケーター

EXT. DIRECT スイッチを押すと、EXT.DIRECT インジケーターが点灯し、EXT.IN 端子からの入力が入出力端子から出力されます。詳細は「他のプリアンプの接続」(23 ページ)と「入出力を選択する」(28 ページ)を参照してください。

再度 EXT.DIRECT スイッチを押すか、INPUT セレクターを回すと、INPUT セレクターで指定した信号が入力になり、EXT.DIRECT インジケーターは消灯します。

メモ

EXT.DIRECT を選択している間は、LINE 2 OUT (録音用) 端子および PHONES 端子から信号が出力されません。



12 ^{インプット} INPUT (入力) セレクター / インジケータ

再生するソースを PHONO、PHONO BAL、TUNER、CD、BAL 1、BAL 2、LINE 1、LINE 2 から選択します。INPUT セレクターで選んだ入力ソースのインジケータが点灯します。

メモ

LINE 2 を選択している間は、LINE 2 OUT (録音用) 端子からオーディオ信号が出力されません。

13 ^{サブソニックフィルター} SUBSONIC FILTER スイッチ

サブソニックフィルターの有効 (^{オン}ON) と無効 (^{スルー}THROUGH) を切り替えます。詳細は「ターンテーブルの入力を調節する」(29 ページ) を参照してください。

メモ

インプットを PHONO と PHONO BAL 以外を選択したときはフィルターが無効になります。

14 ^{オーディオミュート} AUDIO MUTE スイッチ / インジケータ

スイッチを押すと、インジケータが点灯し音量が約 20dB 下がります。再度スイッチを押すと、インジケータが消灯し、もとの音量に戻ります。

15 ^{ボリューム} VOLUME (音量) つまみ

音量レベルを調節します。この調節は LINE 2 OUT (録音用) 端子からの出力レベルには影響しません。

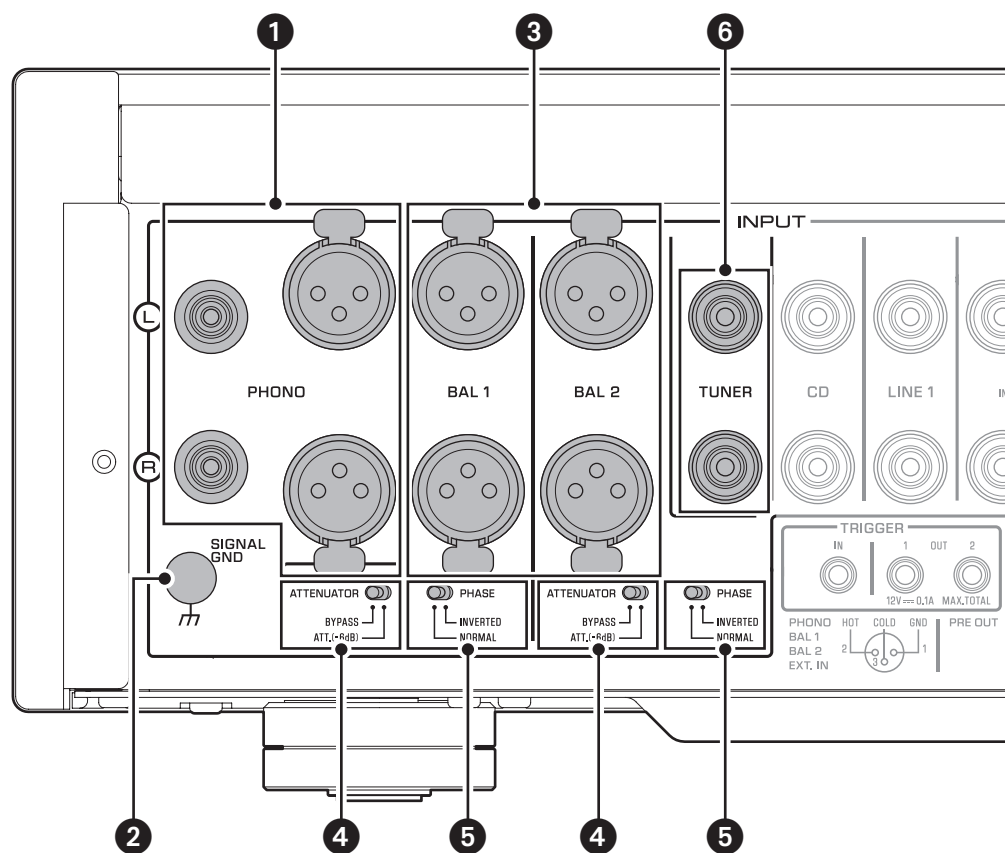
メモ

入力ソースが EXT.DIRECT になっているときは、VOLUME つまみは音量に影響しません。この場合の音量は、EXT.IN 端子に接続した外部のプリアンプなどで調節してください。

16 脚

本機が不安定な場合には、脚を回して高さを調整してください。

リアパネル



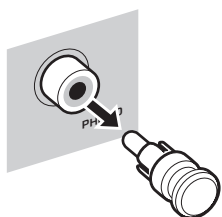
メモ

接続方法に関しては「接続」(19 ページ) を参照してください。

① ^{フォノ} PHONO 端子

RCA 端子と XLR 端子です。「PHONO」を選択したときは RCA 端子、「PHONO BAL」を選択したときは XLR 端子が入力になります。

RCA 端子にはショートピンが取り付けられています。外部機器を接続するときは、ショートピンを取り外してください。詳細は「ターンテーブルの接続」(22 ページ) を参照してください。



⚠ 注意

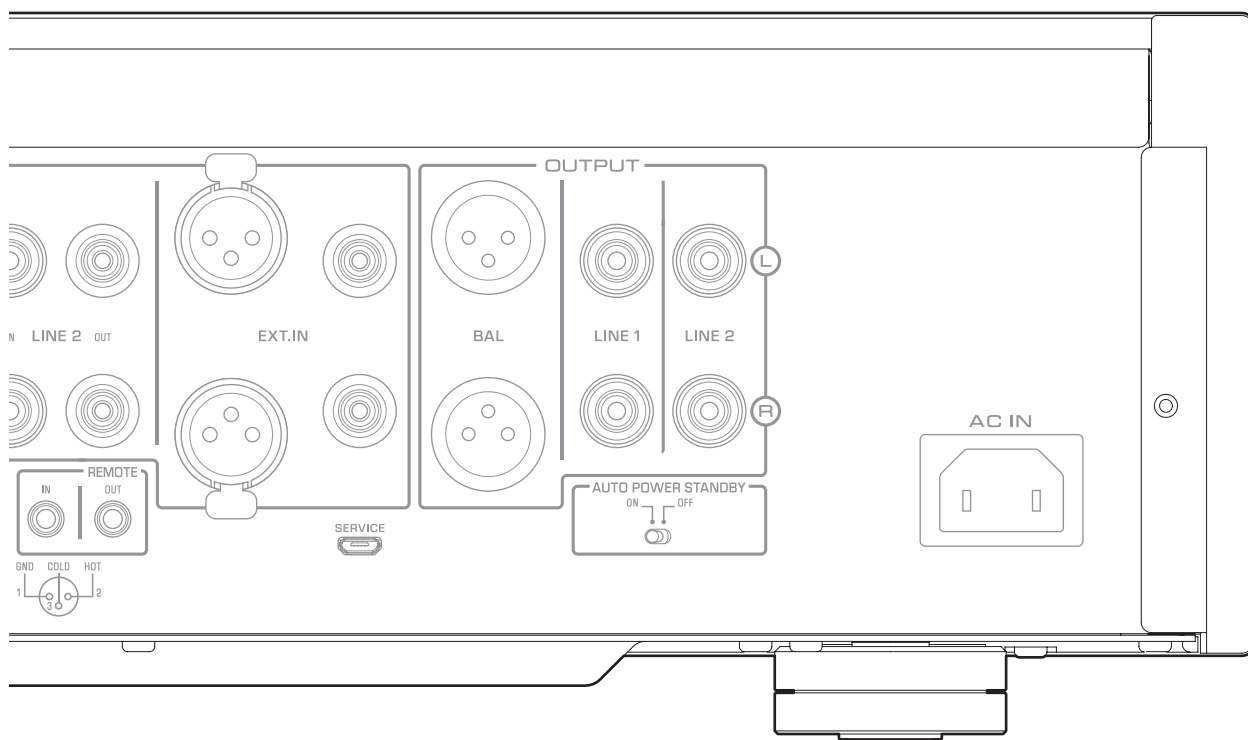
外したショートピンを誤ってお子様や飲み込むおそれがあります。取り扱いにご注意ください。

注意

- ショートピンを、出力端子に取り付けしないでください。故障の原因となります。
- PHONO 端子 (RCA 端子) を使用しないときは、ノイズを防ぐためにショートピンを取り付けてください。

② ^{シグナルグラウンド} SIGNAL GND (アース) 端子

PHONO 端子 (RCA 端子) にターンテーブルからの入力を接続したときに一緒に接続します。接続することでノイズを軽減できることがあります。



③ バランス バランス BAL 1/BAL 2 端子

2系統のXLR入力端子です。「BAL 1」「BAL 2」を選択したときの入力になります。

メモ

それぞれの端子に接続する再生機器に合わせて、ATTENUATORスイッチ、PHASEスイッチを切り替えてください。

④ アッテネーター ATTENUATOR スイッチ

XLR入力端子（BAL 1端子、BAL 2端子）の許容入力レベルを切り替えます。詳細は「音量を調節する」（30ページ）を参照してください。

BYPASS：許容入力レベルは変わりません。通常はこちらを選択してください。

ATT. (-6dB)：入力ゲインを6dB下げること、許容入力レベルを上げます。接続した機器からの音が歪む場合に選択してください。

⑤ フェーズ PHASE スイッチ

XLR入力端子（BAL 1端子、BAL 2端子）のHOTピンの位置を切り替えます。

ノーマル
NORMAL：2番ピンがHOTピンになります。

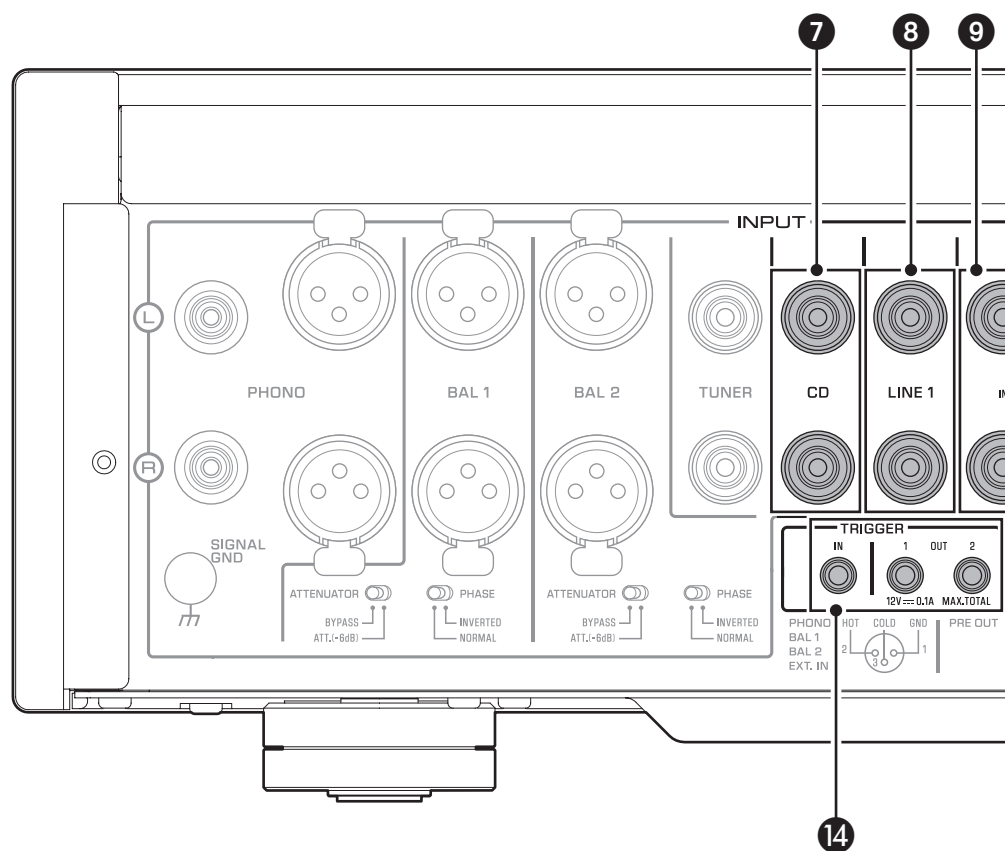
インバート
INV.：3番ピンがHOTピンになります。

詳細は「バランス接続とアンバランス接続」（14ページ）を参照してください。

⑥ チューナー TUNER 端子

RCA入力端子です。「TUNER」を選択したときの入力です。チューナーなどを接続します。

リアパネル



7 CD 端子

RCA入力端子です。「CD」を選択したときの入力です。CDプレーヤーなどを接続します。

8 ライン LINE 1 端子

RCA入力端子です。「LINE 1」を選択したときの入力です。

9 ライン イン LINE 2 IN 端子

RCA入力端子です。「LINE 2」を選択したときの入力です。

10 ライン アウト LINE 2 OUT (録音用) 端子

録音用のRCA出力端子です。通常はフロントパネルまたはリモコンで選択した入力信号を出力します。接続方法の詳細は「録音機器の接続」(22ページ)を参照してください。

メモ

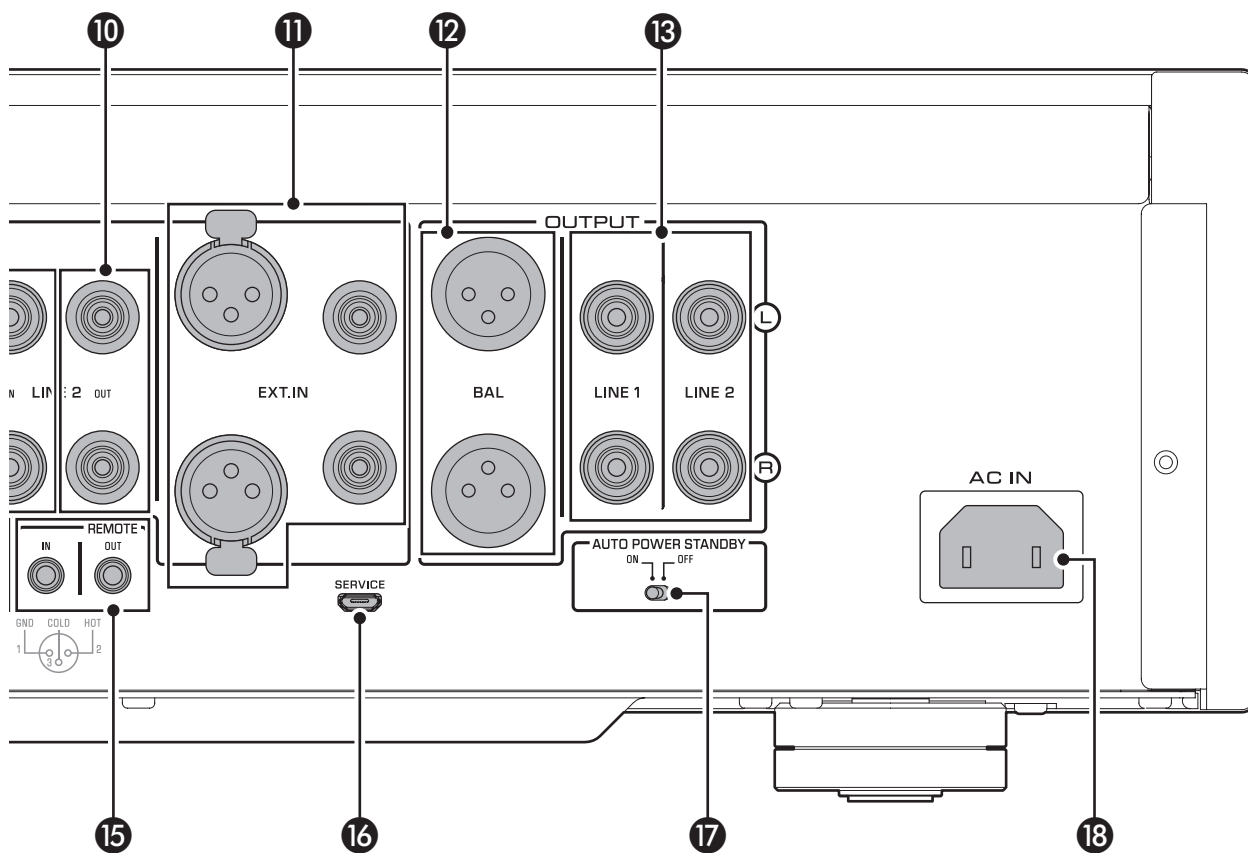
- LINE 2 IN 端子と LINE 2 OUT (録音用) 端子は同一機器と接続します。
- 入力に「LINE 2」または「EXT. DIRECT」を選択している場合、何も出力しません。

11 エクスターナルイン EXT. IN 端子

XLR入力端子とRCA入力端子があります。「EXT. DIRECT」を選択したときの入力です。他のプリアンプなど接続します。詳細は「他のプリアンプの接続」(23ページ)を参照してください。

⚠ 注意

EXT. IN 端子からの入力は、本機で音量を変えることができません。EXT. IN 端子には音量調節できる機器を必ず接続してください。



メモ

音量は固定です。VOLUME つまみや GAIN セレクターを動かしても音量は変わりません。音量は、EXT. IN 端子に接続した機器で調節してください。

12 バランス BAL 端子

XLR 出力端子です。パワーアンプのバランス入力端子に接続します。

13 ライン ライン LINE 1/LINE 2 端子

RCA 出力端子です。パワーアンプの RCA 入力端子に接続します。

14 トリガー イン/トリガー アウト TRIGGER IN/TRIGGER OUT 端子

モノラルミニ端子です。トリガー機能に対応する外部機器を接続します。詳細は「トリガー接続」(24 ページ)を参照してください。

15 リモート イン/リモート アウト REMOTE IN/REMOTE OUT 端子

モノラルミニ端子です。リモート機能に対応する外部機器を接続します。詳細は「リモート接続」(25 ページ)を参照してください。

16 サービス SERVICE 端子

サービス用の端子です。通常は使用しません。

17 オート パワー スタンバイ AUTO POWER STANDBY スイッチ

自動的にスタンバイになるかどうかを設定します。

ON：電源が入っている場合に、8 時間何も操作されなかったとき、自動的にスタンバイになります。

OFF：自動的にスタンバイになりません。

18 AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。詳細は「電源コードの接続」(26 ページ)を参照してください。

バランス接続とアンバランス接続

本機は、バランス接続の端子（XLR 端子）とアンバランス接続の端子（RCA 端子）を装備しています。

メモ

同じ2つの機器間でバランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。アースがループしてノイズの原因になります。

バランス接続

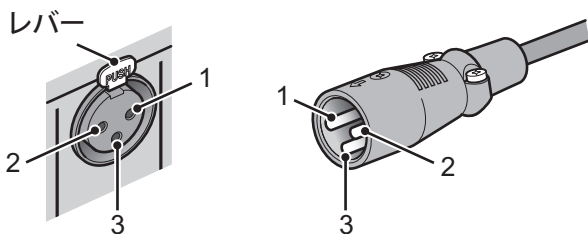
バランス接続は、外部から受けるノイズを打ち消す仕組みになっているのでノイズに強い接続方法です。ケーブルが長くなるとノイズを拾いやすくなるため、長いケーブルを使うときはバランス接続が有利です。一般的に接続機器がバランス出力の場合は、バランス接続をおすすめします。

バランス接続の端子

本機がバランス接続で使用するのは XLR タイプの端子です。入力と出力で形状が異なります。入力端子はメス、出力端子はオスになります。接続には XLR コネクタが付いているバランスケーブルを使用します。ケーブルのオスのコネクタを本機のメスの端子に、メスのコネクタをオスの端子に接続します。

XLR 端子（メス）

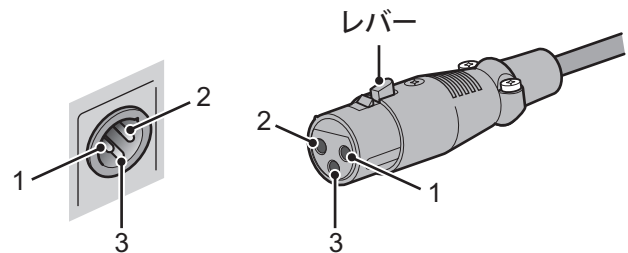
XLR コネクタ（オス）



入力端子の接続の際は、必ずピンどうしを合わせ、XLR コネクタ（オス）を「カチッ」と音がするまで差し込みます。接続を外す際は、本機の入力端子のレバーを押しながら XLR コネクタ（オス）を抜きます。

XLR 端子（オス）

XLR コネクタ（メス）



出力端子の接続の際も、必ずピンどうしを合わせ、XLR コネクタ（メス）を「カチッ」と音がするまで差し込みます。接続を外す際は、ケーブルのコネクタのレバーを押しながら XLR コネクタ（メス）を抜きます。

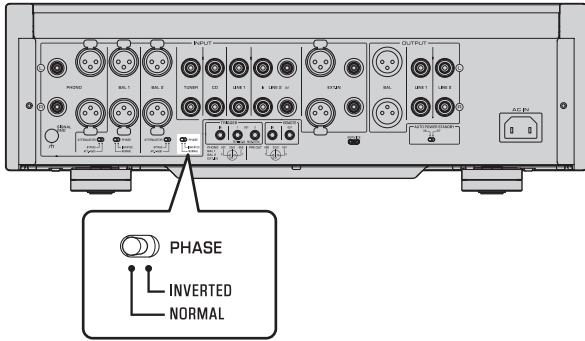
バランス接続の極性

バランス接続は、正しい極性で使用する必要があります。通常は2番ピンがホットになりますが、3番ピンがホットの場合もあります。接続機器に付属している取扱説明書で、出力端子でホットになっているピンの位置を確認してください。

入力端子の BAL 1 端子と BAL 2 端子は、リアパネルの PHASE スイッチで極性を切り替えることができます。

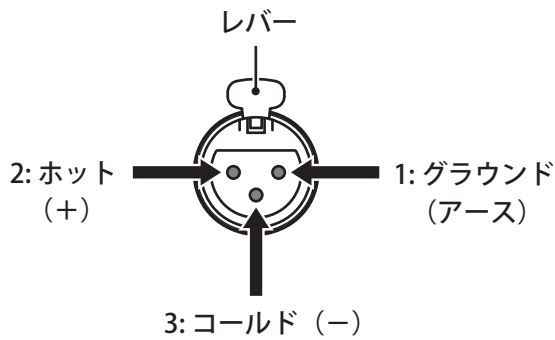
メモ

- PHONO 端子と EXT.IN 端子には PHASE スイッチがありません。通常の状態ですべて固定されます。
- ヤマハのプレーヤーは、2番ピンがホットです。



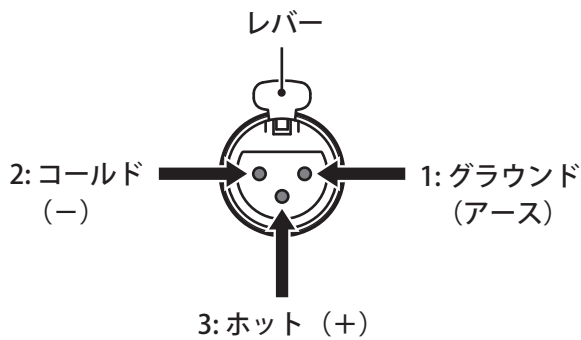
PHASE スイッチが「NORMAL」の場合、2 番ピンがホットになります。

XLR 入力端子

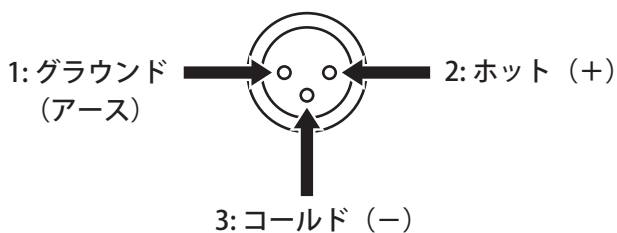


PHASE スイッチが「INVERTED」の場合、3 番ピンがホットピンになります。

XLR 入力端子

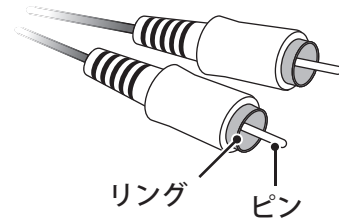


XLR 出力端子

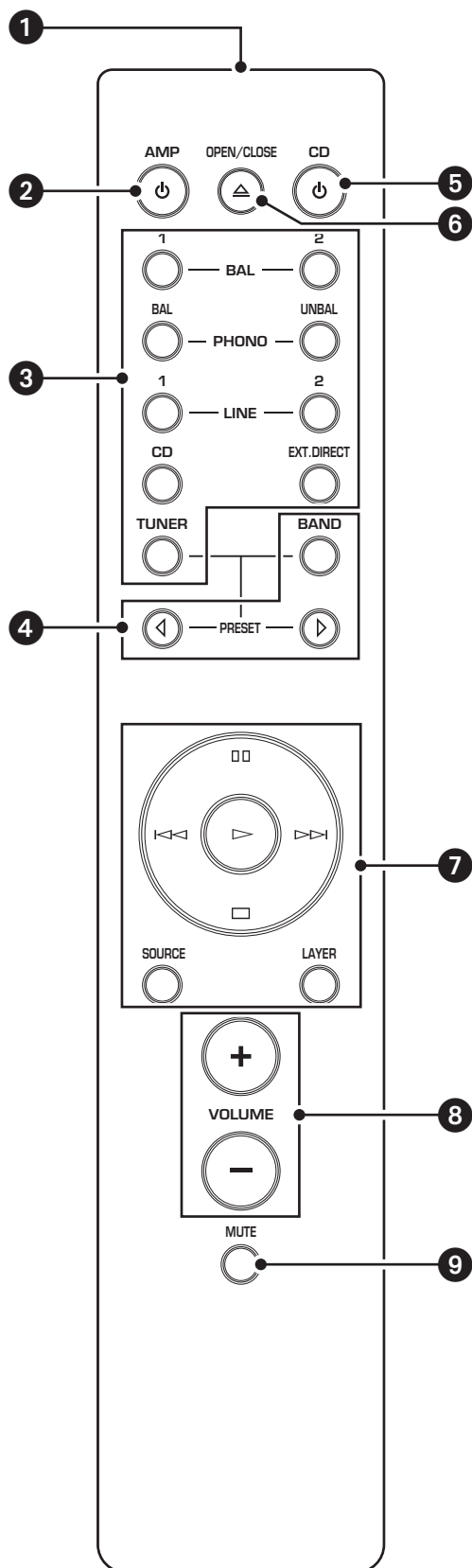


アンバランス接続

オーディオ機器で一般的な RCA 端子しかない機器を接続する場合は、アンバランス接続の RCA 端子を使用します。機器の接続に RCA コネクター式のアンバランスケーブルを使用します。端子にオスとメスの区別や極性はありません。



リモコン



① 赤外線信号送信部

本体に向けて赤外線信号を送ります。

② ^{アンプ} AMP キー

本機の電源をオンとスタンバイに切り替えます。スタンバイについての詳細は「フロントパネル」(6ページ)を参照してください。

③ 入力選択キー

再生する入力を選択します。

バランス
BAL : BAL 1 端子または BAL 2 端子 (XLR 端子) に接続した機器を選択します。

フォノ
PHONO : PHONO 端子 (XLR 端子および RCA 端子) に接続されたターンテーブルを選択します。BAL で XLR 端子、UNBAL で RCA 端子を選択します。

ライン
LINE : LINE 1 端子または LINE 2 端子 (RCA 端子) に接続された機器を選択します。

エクスターナルダイレクト
EXT. DIRECT : EXT IN 端子に接続された機器を選択します。入力ソースに EXT. DIRECT を選択すると、LINE 2 OUT、PHONES の各端子からはオーディオ信号が出力されません。

CD : CD 端子 (RCA 端子) に接続された機器 (通常は CD プレーヤー) を入力ソースに選択します。

チューナー
TUNER : TUNER 端子 (RCA 端子) に接続された機器 (通常はチューナー) を入力ソースに選択します。

メモ

選択した入力信号は LINE 2 OUT (録音用) 端子にも出力されます。LINE 2 を選択しているときは、LINE 2 OUT (録音用) 端子からオーディオ信号が出力されません。

④ チューナー操作キー

ヤマハ製チューナーを操作します。BAND で受信バンドを切り替え、PRESET <▶< キーでプリセットされた放送局を選択します。詳細はチューナーの取扱説明書を参照してください。

メモ

ヤマハ製チューナーでも、対応していない機器が一部あります。



5 CD キー

ヤマハ製 CD プレーヤーの電源のオンとスタンバイを切り替えます。

6 オープン クローズ OPEN/CLOSE (開閉) キー

ヤマハ製 CD プレーヤーのディスクトレイを開閉します。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせて参照してください。

メモ

 CD キーや  OPEN/CLOSE キーは、ヤマハ製 CD プレーヤーでも、対応していない機器があります。

7 CD プレーヤー操作キー

ヤマハ製 CD プレーヤーを操作します。詳細は CD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。

(再生)

再生を開始します。

(ポーズ)

再生を一時停止します。 または  を押すと再生が始まります。

(停止)

再生を停止します。

/ (頭出し)

トラックの頭出しをします。

ソース SOURCE

ヤマハ製 CD プレーヤーで再生したいソースを選択します。キーを押すたびに再生するソースが切り替わります。

レイヤー LAYER

ハイブリッドスーパーオーディオ CD の再生レイヤーを、スーパーオーディオ CD と CD 間で切り替えます。

メモ

ヤマハ製 CD プレーヤーでも、対応していない機器が一部あります。

8 ボリューム VOLUME + / - (音量 + / -) キー

音量を調節します。

メモ

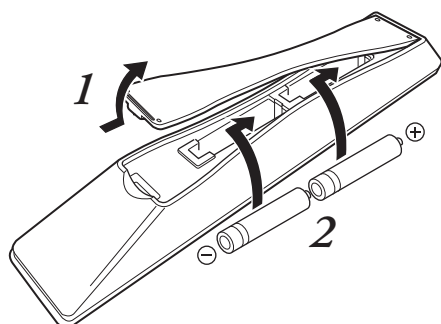
入力ソースに EXT. DIRECT を選択しているときは、リモコンの VOLUME + / - キーの調節は音量に影響しません。この場合の音量は、EXT. IN 端子に接続された外部アンプ側で調節してください。

9 ミュート MUTE キー

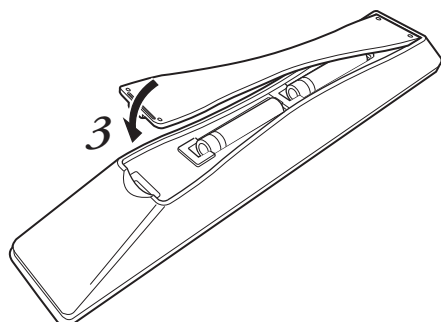
音量が現在のレベルから約 20dB 低くなります。再度押すとオーディオ出力の音量は元のレベルに戻ります。リモコンの VOLUME + / - キーを押すと、ミュート機能は解除されます。

リモコンに電池を入れる

- 1 電池カバーを外す。
- 2 電池ケース内に記載されている極性 (+ / -) に従って、単4乾電池 (2本) を電池ケースに挿入する。



- 3 電池カバーを装着する。



警告

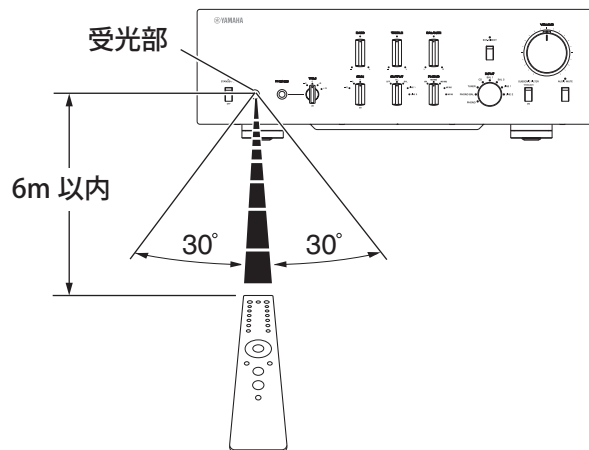
- 乾電池を火の中に入れてたり、乾電池を日光や火のような高温に晒したりしないでください。破裂により、火災やけがの原因になります。
- 使い切りタイプの乾電池は充電しないでください。充電すると破裂や液漏れの原因になり、失明や化学やけど、けがなどのおそれがあります。
- 乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れないでください。失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

注意

- 乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しないでください。新しいものと古いものを一緒に使用すると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。
- 種類の異なる乾電池を一緒に使用しないでください。アルカリとマンガンと一緒に使用したり、メーカーまたは品番の異なる電池を一緒に使用したりすると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。
- 乾電池は乳幼児の手の届くところに置かないでください。お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。
- 乾電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れてください。正しく入れていない場合、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。
- 長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池をリモコンから抜いておいてください。乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、炎症やリモコンの損傷の原因になります。

リモコンを使う

リモコンは、送信部を本体のフロントパネルの受光部に向けてから操作してください。



接続

チューナー、CD プレーヤーなどの音源や
パワーアンプとの接続について説明します。



注意

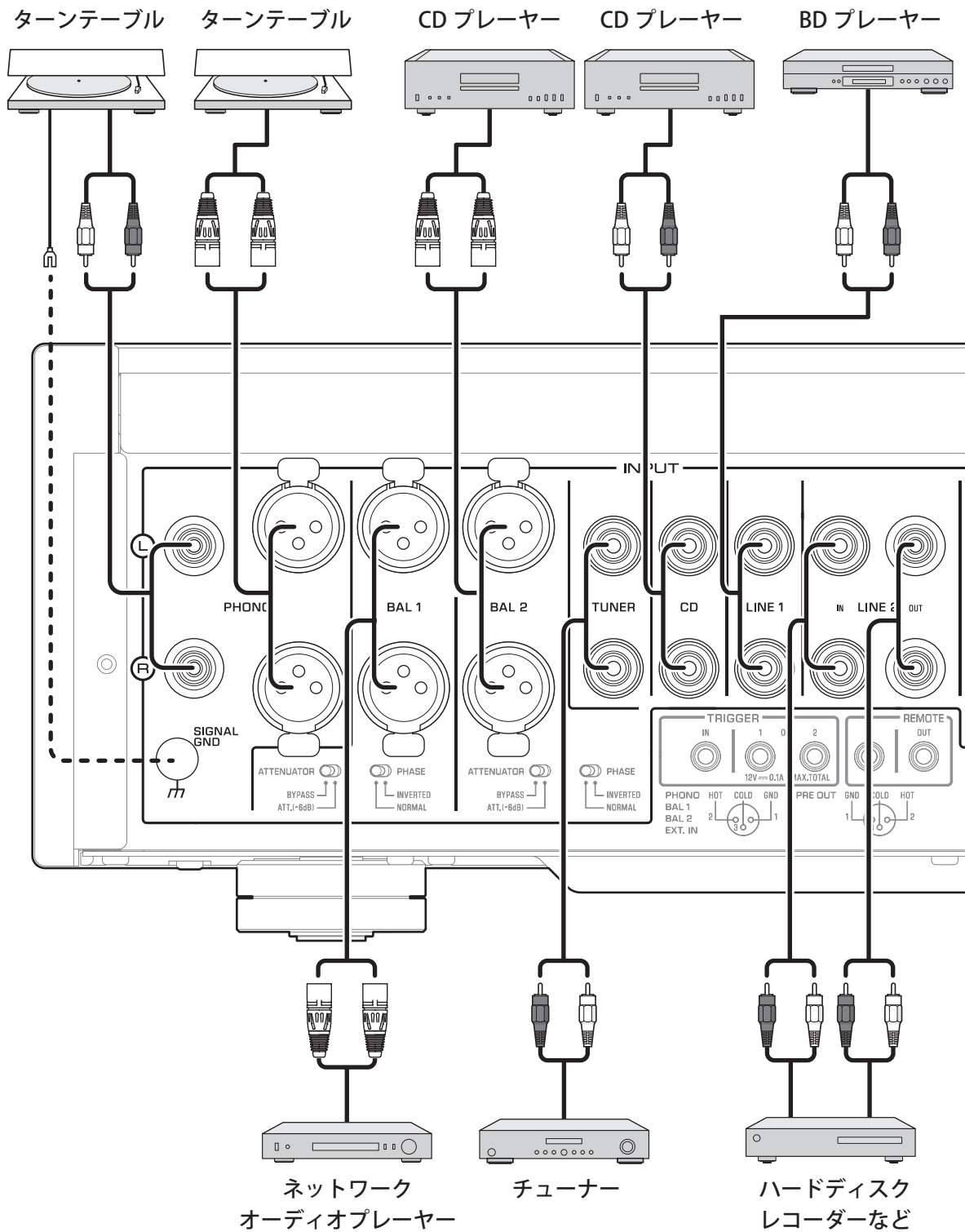
接続は、すべての電源を切った上で行ってください。

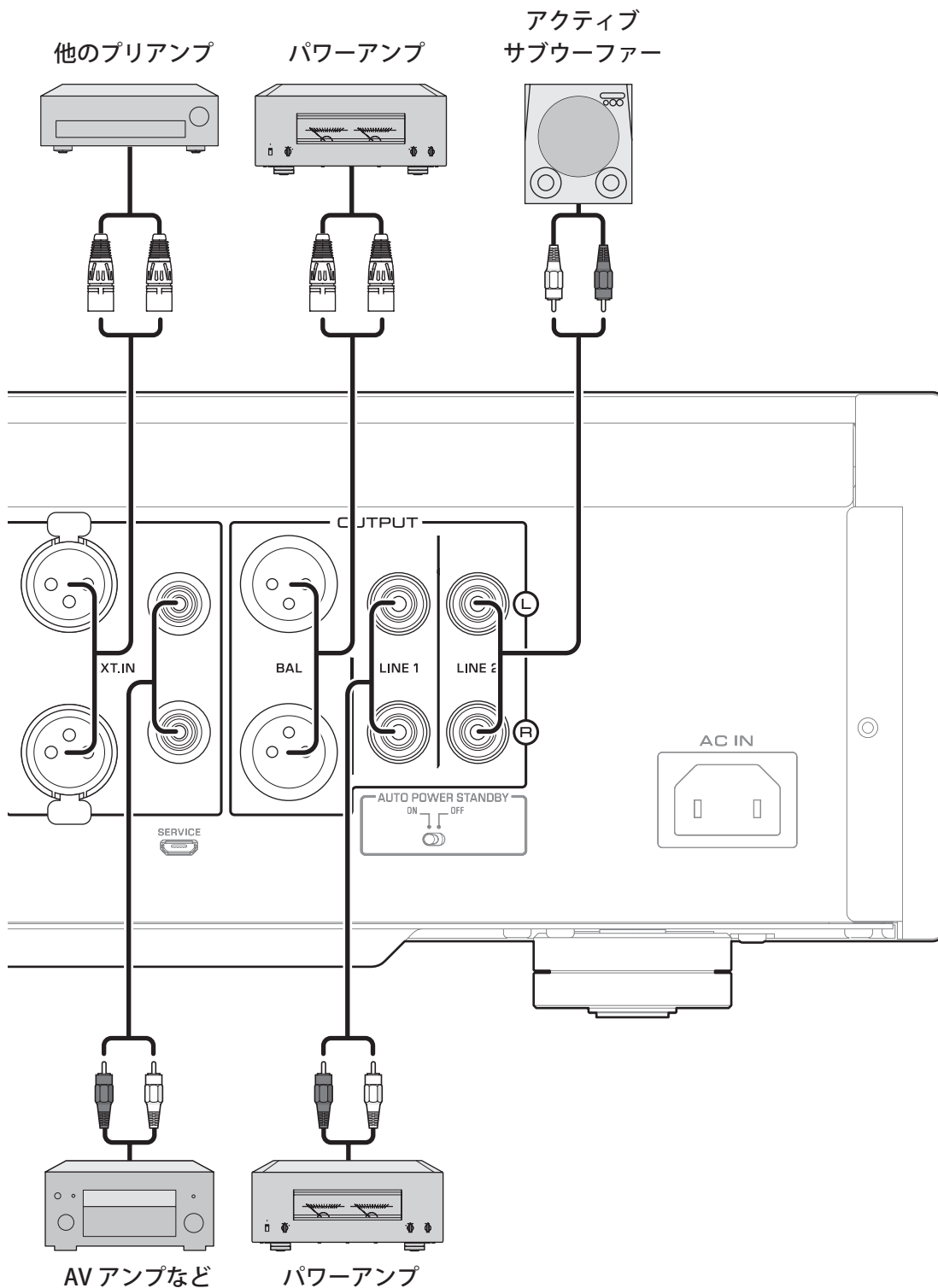
注意

- 同じ2つの機器間でバランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。アースがループしてノイズの原因になります。
- 外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

C-5000

外部機器の接続





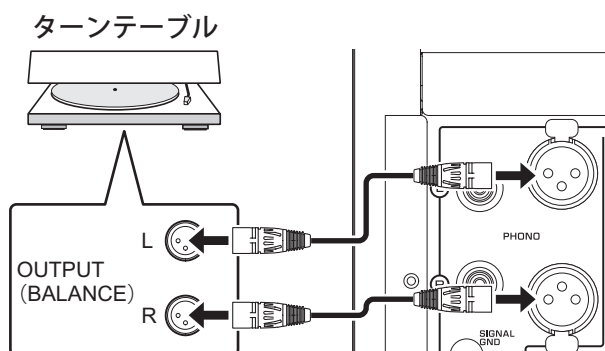
注意

同じ2つの機器間でバランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。アースがループしてノイズの原因になります。

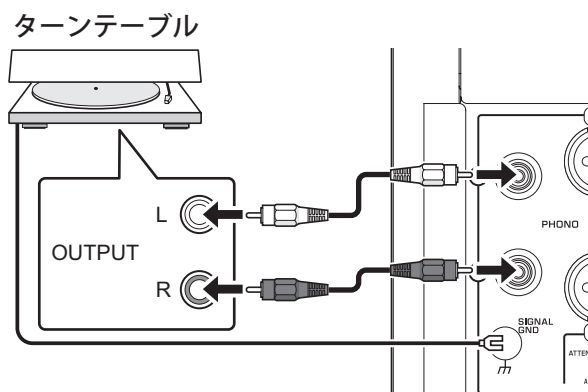
ターンテーブルの接続

ターンテーブルは PHONO 端子に接続します。PHONO 端子には XLR 端子と RCA 端子があり、XLR 端子につなぐとバランス接続、RCA 端子につなぐとアンバランス接続になります。

バランス接続



アンバランス接続



メモ

RCA 端子に接続した場合は、SIGNAL GND (アース) 端子を接続した状態と接続しない状態で聞き比べて、ノイズの少ないほうで選んでください。

注意

同じターンテーブルとバランス接続とアンバランス接続を同時にしないでください。アースグループしてノイズの原因になります。

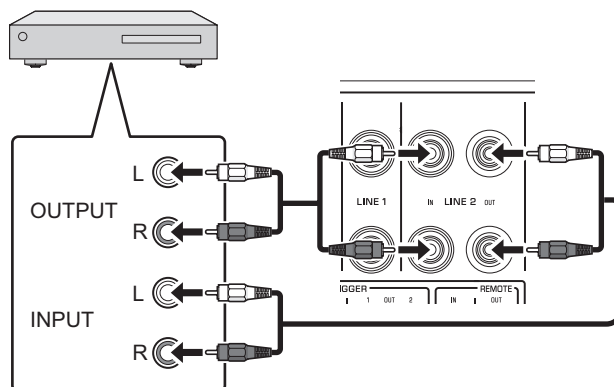
録音機器の接続

ハードディスクレコーダーなどの録音できる機器に本機からの出力を入力できます。LINE 2 IN 端子と LINE 2 OUT (録音用) 端子の両方に接続してください。

メモ

- LINE 2 IN 端子と LINE 2 OUT (録音用) 端子は同じ機器に接続してください。
- 基本的に LINE 2 OUT (録音用) 端子からは OUTPUT セレクターで選択した出力端子と同じ信号が出力します。LINE 2 を入力に選択した場合は、何も出力しません。

ハードディスクレコーダーなど



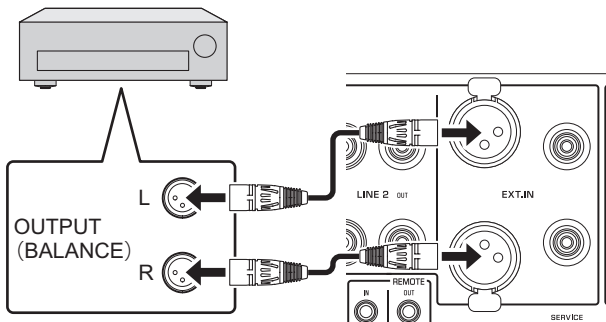
他のプリアンプの接続

他のプリアンプの出力などを EXT. IN 端子に接続して、EXT.DIRECT スイッチを押すと、入力信号は本機を経由して OUTPUT 端子からパワーアンプに出力します。バランスの EXT. IN 端子からの入力は BAL 端子（バランス端子）、アンバランスの EXT. IN 端子からの入力は LINE 1 端子と LINE 2 端子に出力されます。

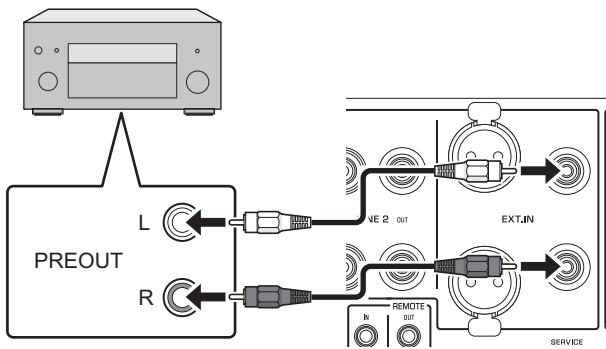
メモ

EXT. DIRECT にした場合、PHONES 端子に接続したヘッドホンから音は出なくなります。

他のプリアンプ



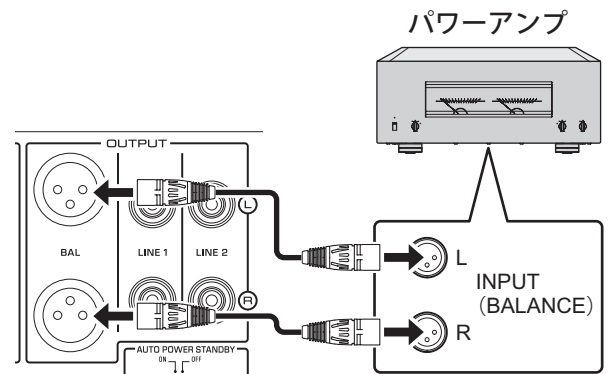
AV アンプなど



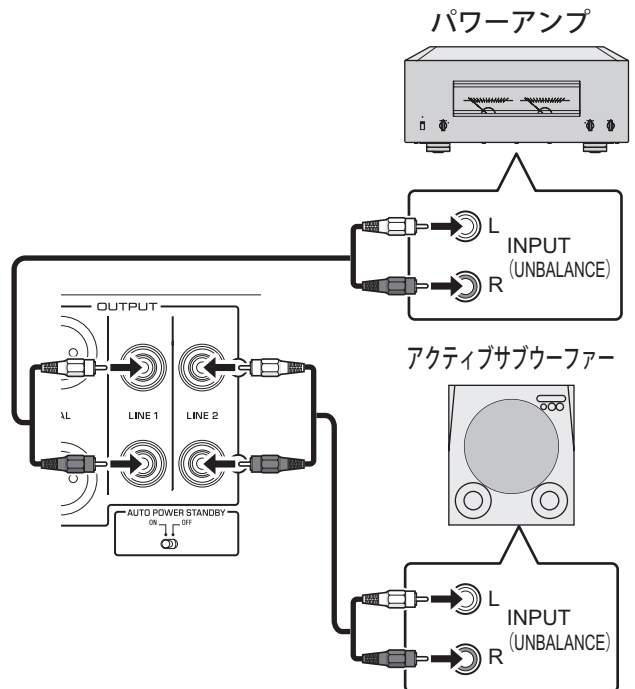
パワーアンプやアクティブサブウーファースの接続

OUTPUT 端子の BAL 端子や LINE 1 端子、LINE 2 端子には、パワーアンプやアクティブサブウーファースを接続します。

バランス接続



アンバランス接続



注意

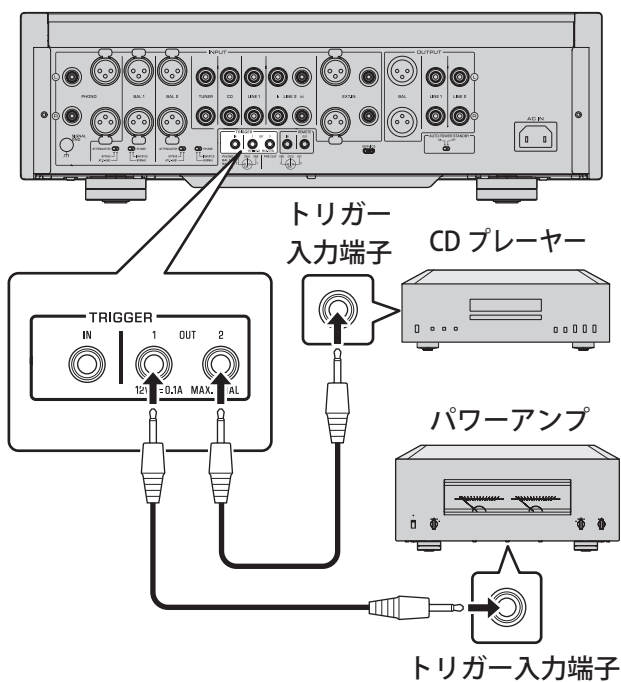
同じ2つの機器間でバランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。アースがループしてノイズの原因になります。

トリガー接続

パワーアンプなどの電源を本機と連動させる

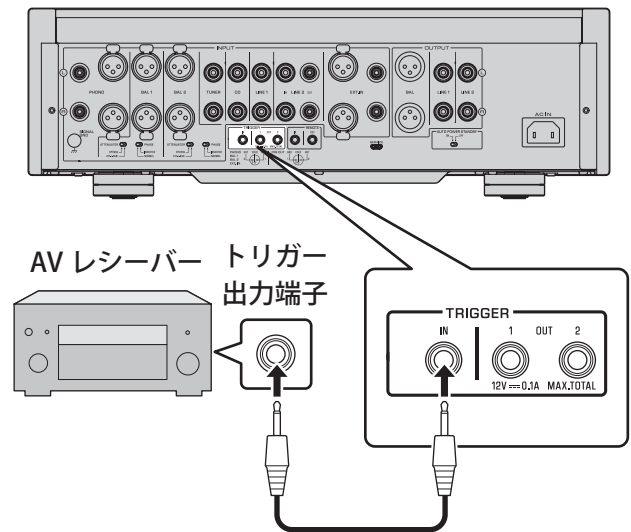
本機の電源のオン/オフにヤマハ製の CD プレーヤーやパワーアンプなどの機器を連動させることができます。

システム接続ケーブルを使って本機の TRIGGER OUT 端子を接続機器のトリガー入力端子に接続します。



AV レシーバーなどから本機を連動させる

ヤマハ製 AV レシーバーなどの機器の電源オン/オフに連動させて本機をコントロールできます。システム接続ケーブルで本機の TRIGGER IN 端子と接続機器のトリガー出力端子を接続します。本機がスタンバイのときに接続した機器をオンにすると本機もオンになり、EXT. IN 端子からの入力に切り替わります。接続した機器をオフにすると、本機はスタンバイになります。



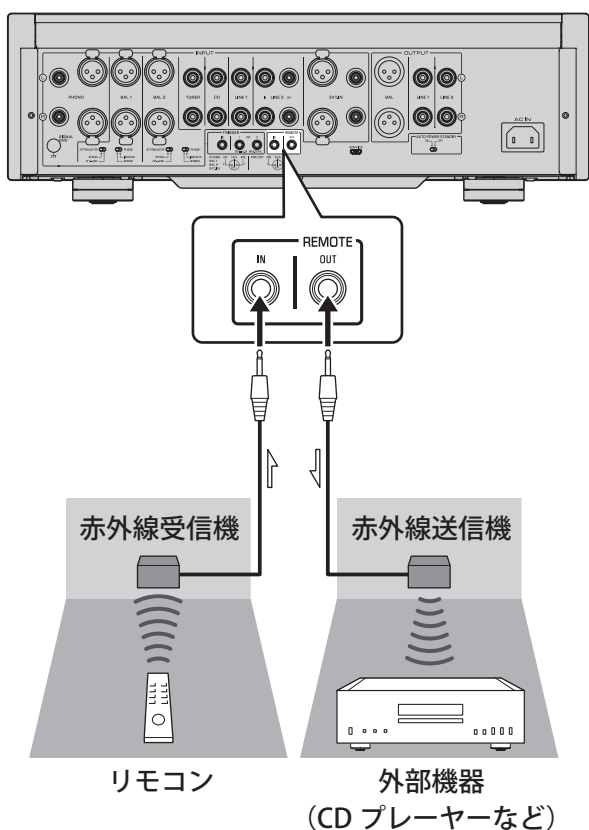
メモ

- 本機の電源スイッチが OFF のときは連動しません。
- 本機の入力が EXT. DIRECT 以外の場合、接続機器をオフにしても本機はオフになりません。

リモート接続

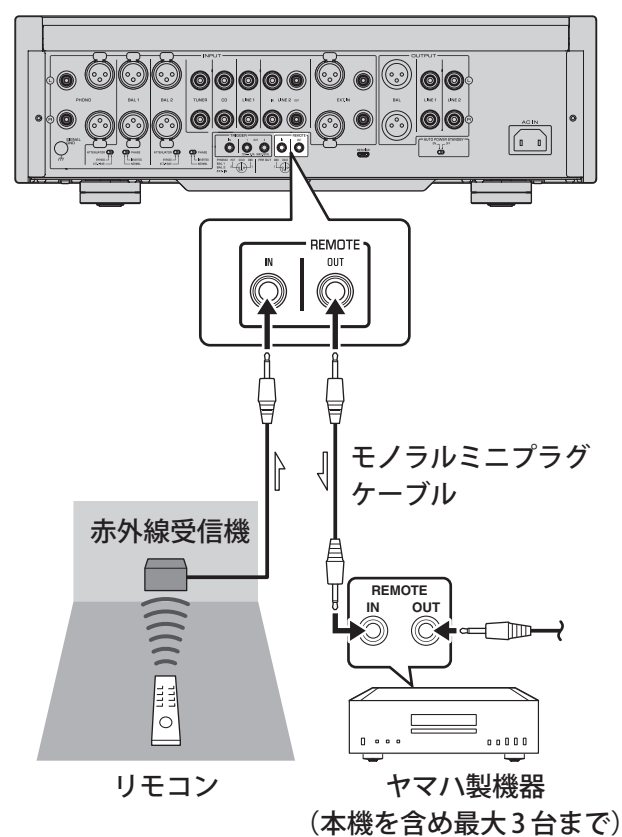
別の部屋から本機を操作する

赤外線受信機 / 送信機を本機の REMOTE IN/OUT 端子に接続すれば、付属のリモコンで、別の部屋から本機や外部機器を操作できます。



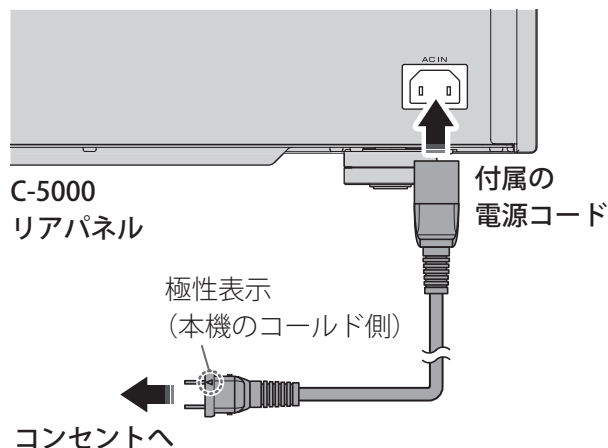
ヤマハ製機器間でリモート接続する

本機のようにリモート接続に対応している別のヤマハ製機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。赤外線受信機とモノラルミニプラグケーブルを使って、REMOTE IN/OUT 端子を接続するだけで、リモコン信号を転送できます。接続できるヤマハ製機器は、本機を含めて3台までです。



電源コードの接続

すべての接続が終了したら、STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチが切つてあること確認したうえで、電源コードを本機の AC IN 端子に差し込み、家庭用 AC100V、50/60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。



メモ

- 付属の電源コードの▽マークは極性（本機のコード側）を示しています。
- 接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

警告

- 下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 電源コード／プラグが傷んだ場合
 - 機器から異臭、異音や煙が出た場合
 - 機器の内部に異物や水が入った場合
 - 使用中に音が出なくなった場合
 - 機器に亀裂、破損がある場合そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。
- 落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らないでください。感電の原因になります。
- 電源はこの機器に表示している電源電圧で使用してください。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。

- 電源コードは、必ず付属のものを使用してください。付属の電源コードをほかの機器に使用しないでください。火災、やけど、または故障の原因になります。
- 電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続してください。万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。
- 雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や故障の原因になります。
- 長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。火災や故障の原因になります。

注意

- 電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。火災、感電、やけどの原因になります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。
- 電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込んでください。差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

注意

この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。STANDBY/ON/OFF スイッチを切った状態（電源ランプが消えている）でも微小電流が流れています。

操作

基本的な操作手順を説明します。
本機の機能を最大限に引き出すための参考です。
記載している操作手順は、あくまでも一例です。

C-5000

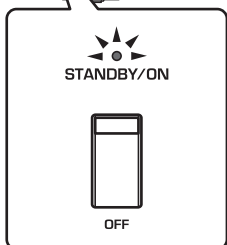
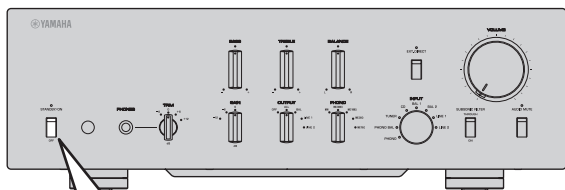
電源を入れる



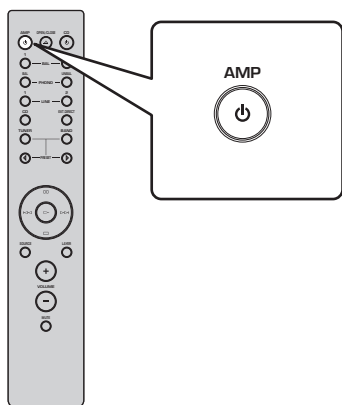
注意

電源を入れる前に、必ず音量を最小にしてください。

フロントパネルの STANDBY/ON/OFF (電源) スイッチを「STANDBY/ON」にして電源を入れます。



本機がスタンバイの場合、リモコンで電源を入れることもできます。



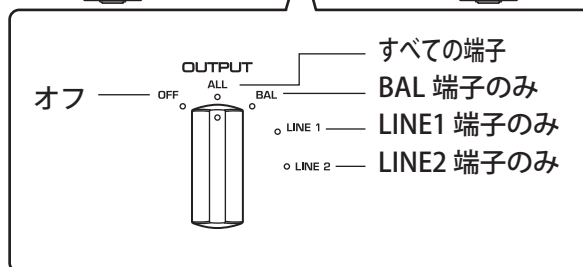
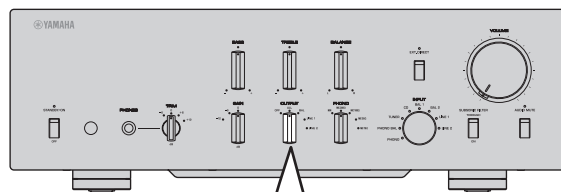
注意

電源はパワーアンプ、プリアンプ (本機)、その他の機器 (CD プレーヤーやチューナーなど) の順に入れてください。

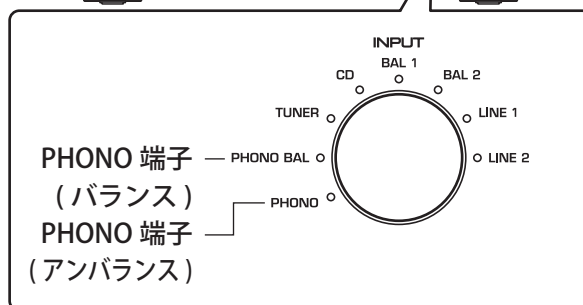
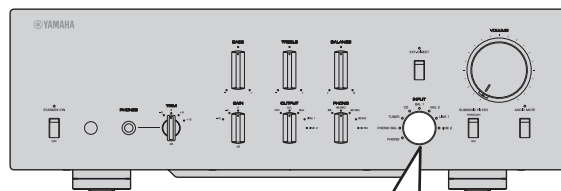
電源を切るときは、逆の順にしてください。

入出力を選択する

OUTPUT セレクターで出力する端子を選択します。

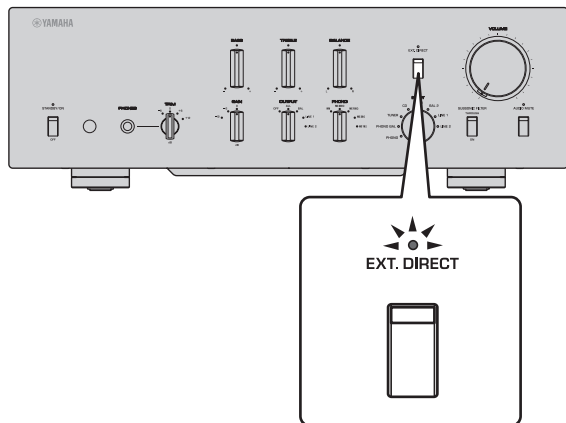


INPUT セレクターで入力する音源を選択します。



対応するインジケーターが点灯します。

EXT. IN 端子入力の選択



EXT.DIRECT スイッチを押すと、EXT.DIRECT インジケータが点灯します。INPUT セレクターの選択が無効になり、EXT.IN 端子への入力が OUTPUT 端子から出力されます。バランス入力端子への信号は BAL 端子（バランス出力）に、ライン入力端子への信号は LINE 1 端子 / LINE 2 端子（ライン出力）にそれぞれ出力されます。

再度 EXT.DIRECT スイッチを押すか、INPUT セレクターを回すと、INPUT セレクターで指定した信号が入力になります。EXT.DIRECT インジケータは消灯します。

メモ

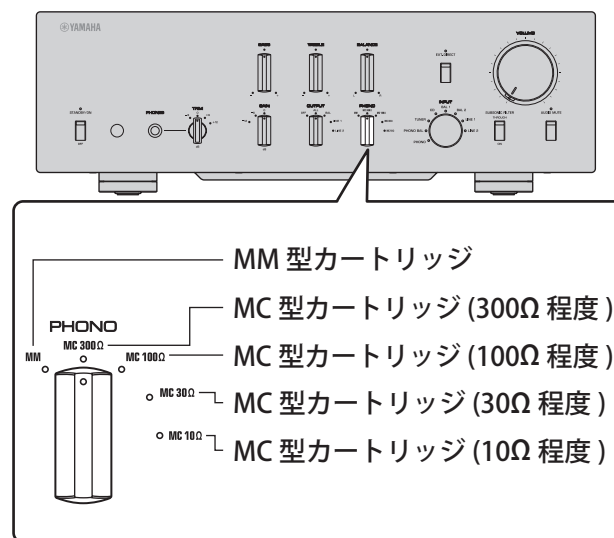
EXT.DIRECT を選択している間は、LINE 2 OUT（録音用）端子および PHONES 端子から信号が出力されません。

ターンテーブルの入力を調節する

PHONO セレクター

ターンテーブルのカートリッジに合わせて、PHONO セレクターを切り替えます。

ターンテーブルのカートリッジ選択



注意

MM 型カートリッジをつけているときは、PHONO セレクターを必ず MM にしてください。

メモ

PHONO セレクターのインピーダンスの表示は目安です。実際に音色を確認しながら最適な設定を選んでください。

注意

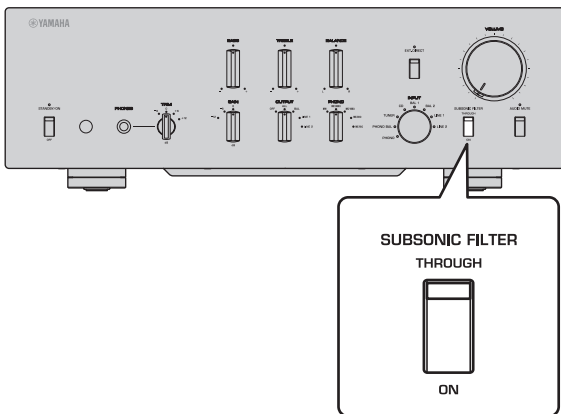
カートリッジを交換する際は、本機の電源を必ずオフにしてください。

音量を調節する

サブソニックフィルター

必要に応じて、SUBSONIC FILTER スイッチを ON にしてサブソニックフィルターをかけます。

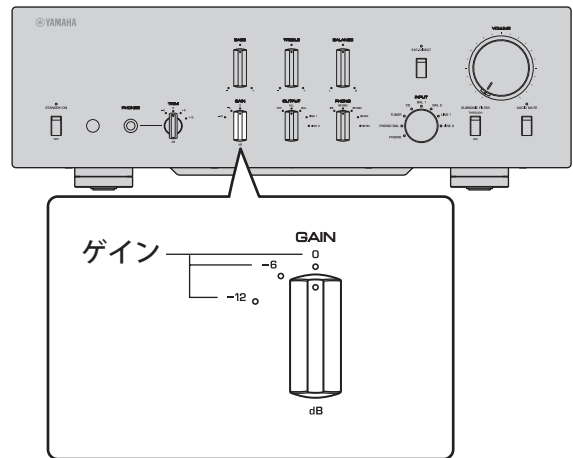
ターンテーブルのトーンアームの共振やレコードのそりで発生する超低音域の雑音（サブソニックノイズ）がスピーカーに負荷を与えることがあります。スピーカー保護のために、サブソニックフィルターをかけて雑音をカットします。



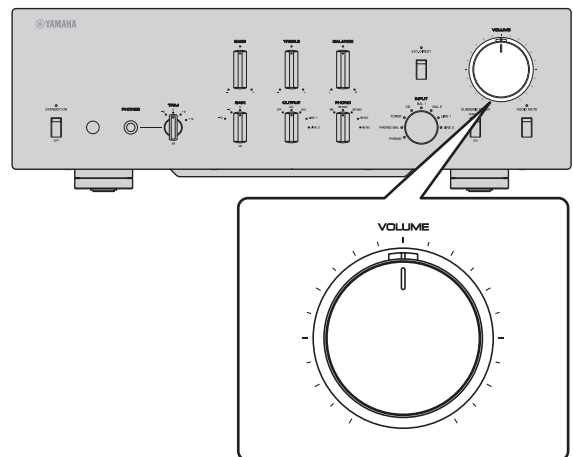
メモ

入力がターンテーブル (PHONO 端子) 以外の場合、SUBSONIC FILTER スイッチを ON にしていてもサブソニックフィルターは無効になります。

VOLUME つまみで調節しやすくなるように GAIN セクターを切り替えます。

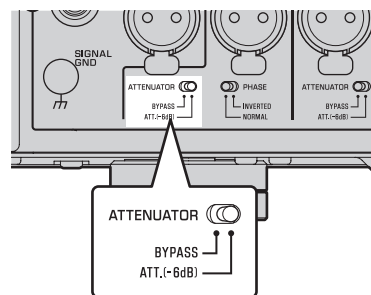


VOLUME つまみで音量を調節します。



メモ

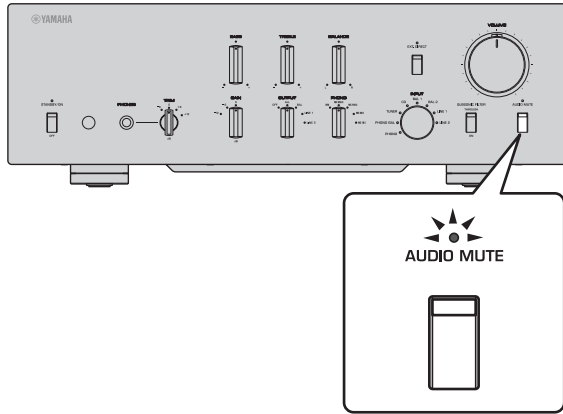
VOLUME つまみで音量を絞っていても音が歪むときは、入力信号が許容入力を超えている可能性があります。バランス入力端子 (BAL 1、BAL 2) から信号を入力している場合は、ATTENUATOR スイッチを「ATT. (-6dB)」にしてください。



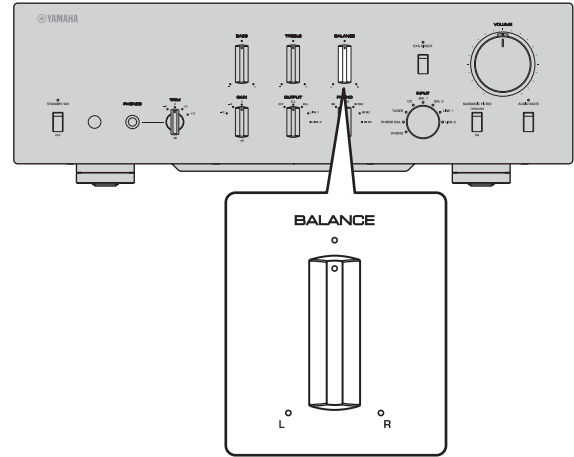
音色を調整する

一時的に音を下げる

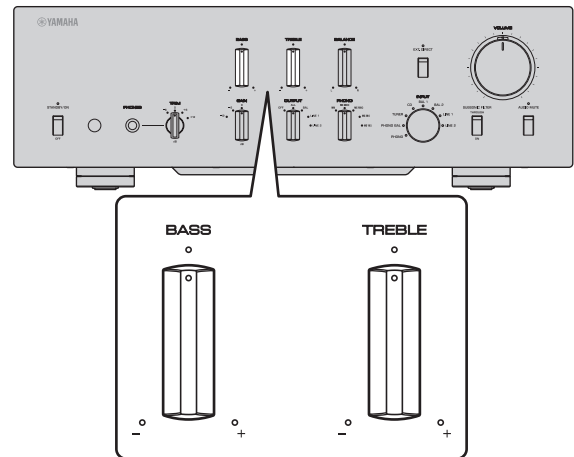
AUDIO MUTE スイッチを押すと、音量が 20dB 下がります。もう一度押すと元の音量に戻ります。



BALANCE つまみで左右のスピーカーから音量バランスを調節します。



BASS つまみと TREBLE つまみで低音と高音の音量を調節します。

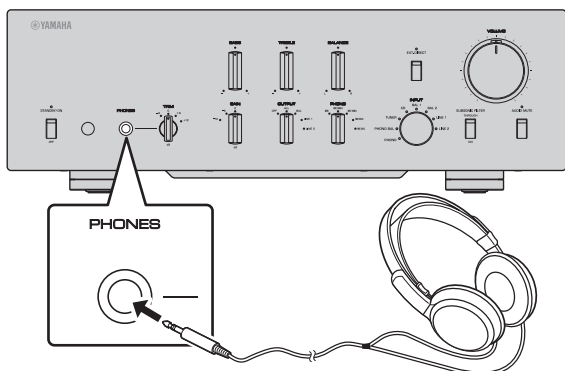


メモ

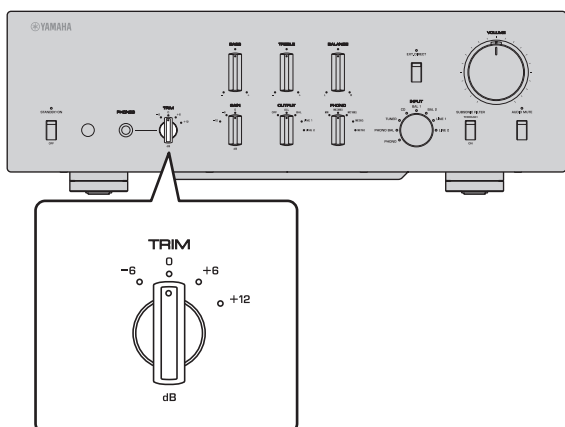
- BASS と TREBLE の両方を中央にセットすると、オーディオ信号はトーンコントロール回路をバイパスします。
- BASS と TREBLE、BALANCE の設定は、EXT. IN 端子の入力信号と LINE 2 OUT (録音用) 端子の出力信号に反映されません。

ヘッドホンを接続する

PHONES 端子にヘッドホンを接続すると、リアパネルの出力端子（BAL 端子、LINE 1 端子、LINE 2 端子）から信号が出力されなくなります。



TRIM セレクターでヘッドホンアンプのゲインを切り替え、PHONES 端子から出力される音声とスピーカーから出力される音声の音量バランスを調節します。



メモ

EXT.DIRECT を選択している間は、PHONES 端子から信号が出力されません。

資料

C-5000

一般仕様

定格出力／出力インピーダンス

(入力 200mV、20Hz～20kHz、THD 0.01%)

BAL (BYPASS)	2Vrms/150Ω
BAL (ATT. -6dB)	1Vrms/150Ω
LINE 1/LINE 2	1Vrms/150Ω
LINE 2 OUT (録音用)	200mVrms/1.2kΩ

最大出力 (1kHz、THD 0.05%)

BAL	6Vrms
LINE 1/LINE 2	3Vrms
LINE 2 OUT (録音用)	3Vrms

入力感度／入力インピーダンス

BAL/LINE 1/LINE 2、1V

BAL 1/BAL 2	200mVrms/52kΩ
TUNER/CD/LINE 1/LINE 2 IN	200mVrms/47kΩ
EXT.IN	1Vrms/20kΩ

LINE 2 OUT (録音用) (150mV、1kHz)

PHONO (MC 300Ω)	100 μ Vrms/300Ω
PHONO (MC 100Ω)	100 μ Vrms/100Ω
PHONO (MC 30Ω)	100 μ Vrms/30Ω
PHONO (MC 10Ω)	100 μ Vrms/10Ω
PHONO (MM、XLR端子)	2.5mVrms/52kΩ
PHONO (MM、RCA端子)	2.5mVrms/47kΩ

最大許容入力電圧

LINE 2 OUT (録音用) (1kHz、THD 0.05%)

BAL (BYPASS)	2.8Vrms
BAL (ATT. -6dB)	5.6Vrms
TUNER/CD/LINE 1/LINE 2 IN	2.8Vrms
PHONO (MC)	2mVrms
PHONO (MM)	50mVrms
EXT.IN	5.6Vrms

周波数特性 (JEITA、負荷22kΩ)

10Hz～100kHz	+0 / -3dB
20Hz～20kHz	+0 / -0.3dB

全高調波歪率 (JEITA、20Hz～20kHz)

BAL 1/BAL 2/TUNER/CD/LINE 1/LINE 2 IN → BAL/LINE 1/LINE 2	0.0100%
PHONO (MC) → LINE 2 OUT (録音用)	0.0200%
PHONO (MM) → LINE 2 OUT (録音用)	0.0200%

チャンネルセパレーション

(入力1.0kΩ終端、1kHz/10kHz、JEITA)

BAL 1/BAL 2/TUNER/CD/LINE 1/LINE 2 IN	110dB以上
PHONO (MC)	80dB以上
PHONO (MM)	98dB以上

ファンクションセパレーション

(IHF-Aネットワーク、入力1.0kΩ終端、JEITA)

BAL 1/BAL 2/TUNER/CD/LINE 1/LINE 2 IN	110dB以上
PHONO (MC)	75dB以上
PHONO (MM)	95dB以上

S/N比

(IHF-Aネットワーク、入力1.0kΩ終端、JEITA)

BAL 1/BAL 2/TUNER/CD/LINE 1/LINE 2 IN	110dB以上
PHONO (MC 300Ω)	80dB以上
PHONO (MM)	98dB以上

残留ノイズ (IHF-Aネットワーク)

BAL/LINE 1/LINE 2	3 μ V
-------------------------	-------

トーンコントロール特性

Bass

可変幅..... 30Hz / ±9dB

ターンオーバー周波数..... 350Hz

Treble

可変幅..... 20kHz / ±9dB

ターンオーバー周波数..... 3.5kHz

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。
最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロード
できます。

ヘッドホン定格出力 (1kHz、32Ω、0.2% THD)

..... 35 mW + 35 mW

RIAAイコライザ偏差

MC/MM..... ±0.5dB

サブソニックフィルター特性

MC/MM..... 15Hz / -3dB

電源電圧

..... AC100V、50Hz/60Hz

消費電力

..... 60W

待機時消費電力

オフ..... 0.1W

スタンバイ..... 0.2W

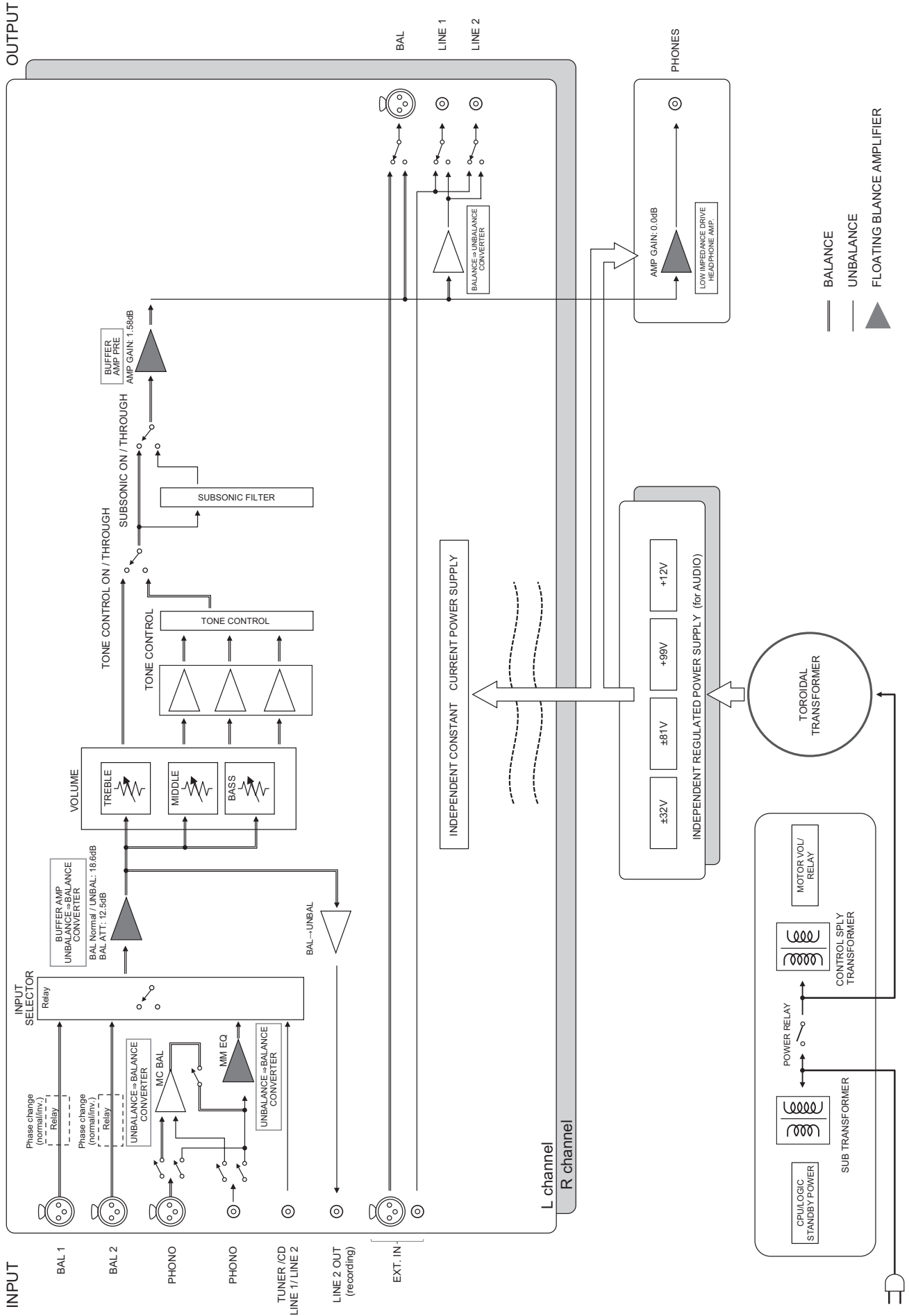
寸法 (幅×高さ×奥行)

..... 435×142×451mm

質量

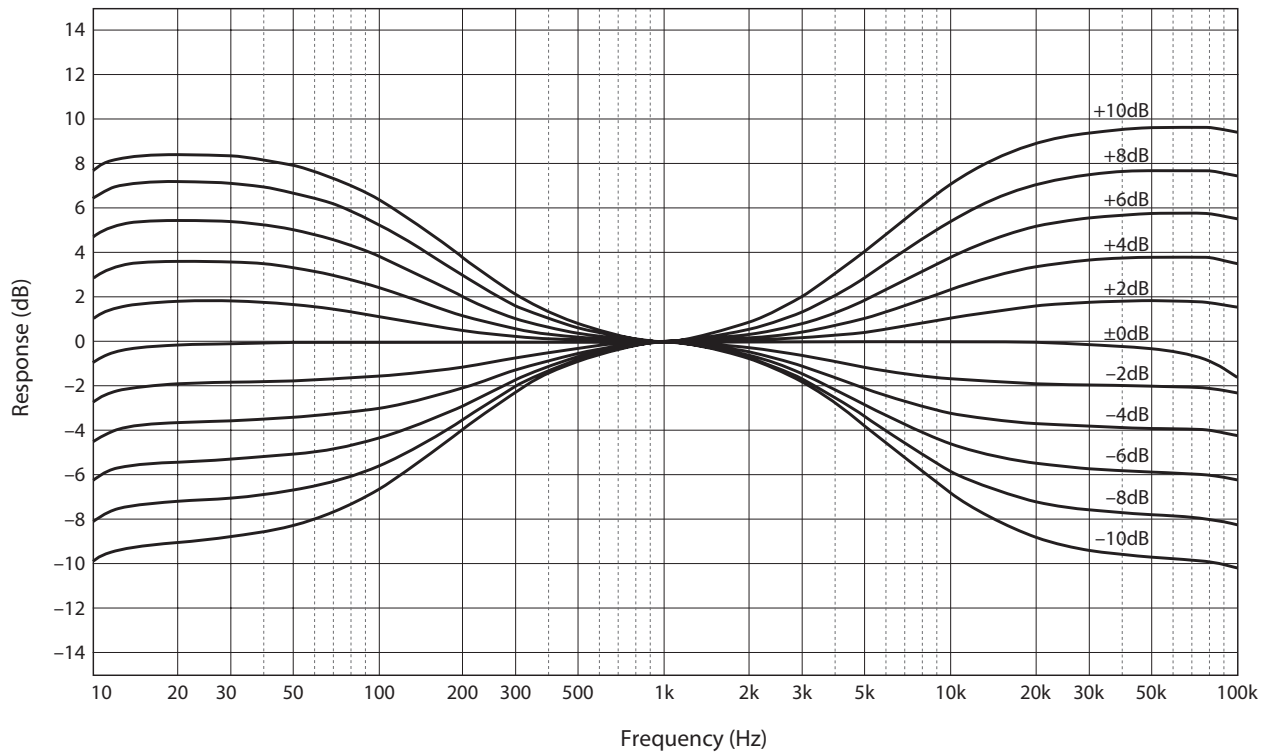
..... 19.1kg

ブロックダイアグラム

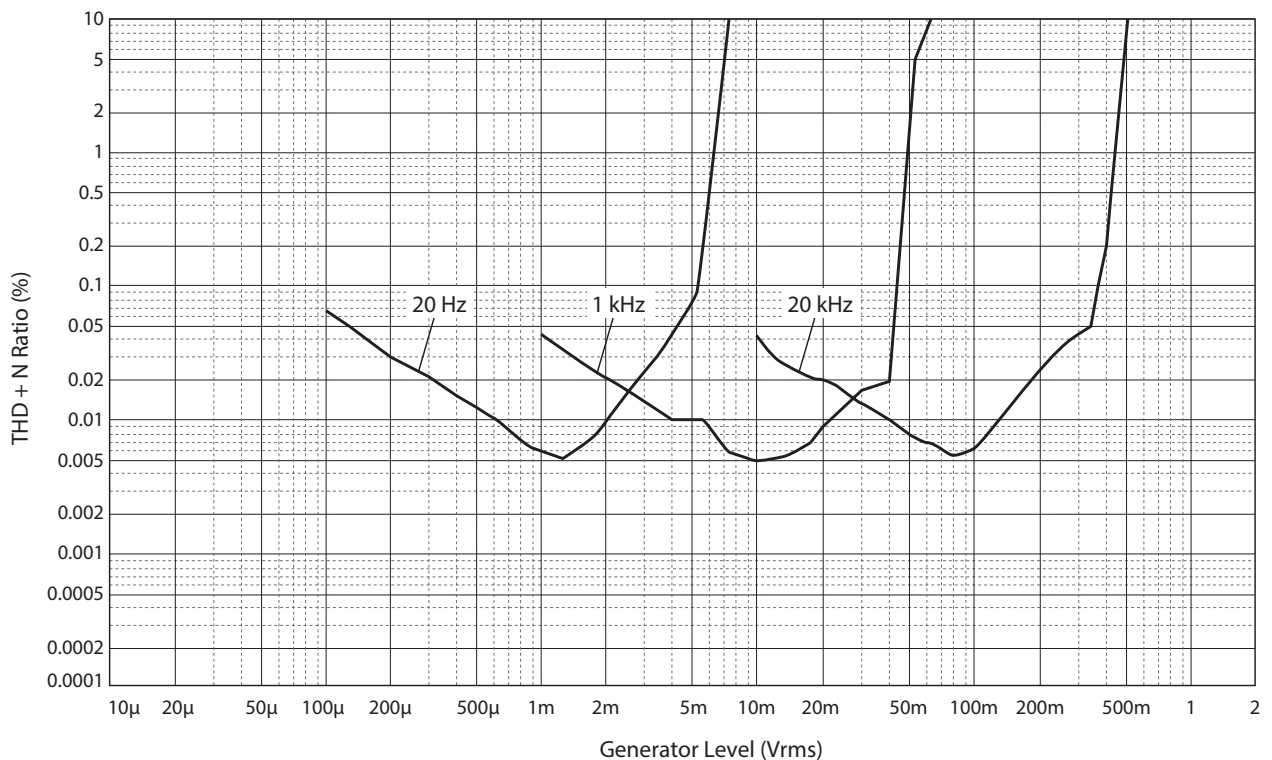


音響特性

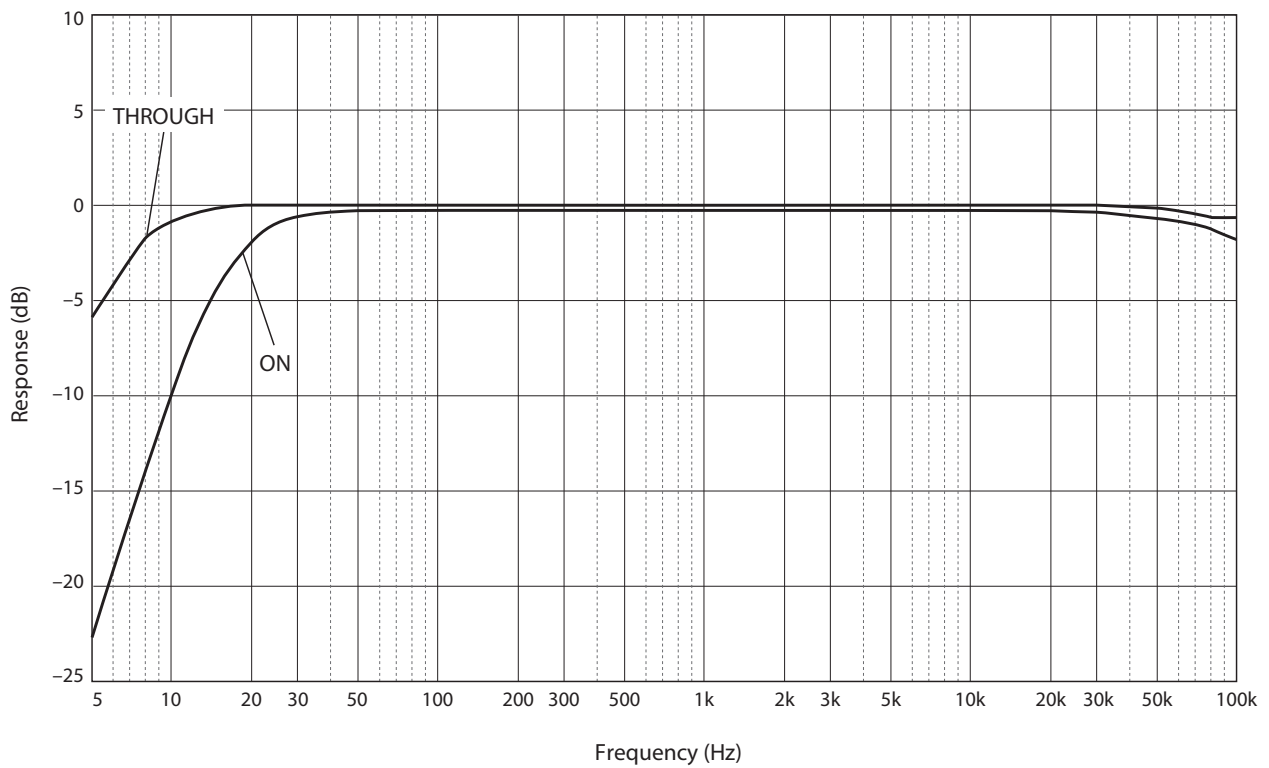
周波数特性 (トーンコントロール)



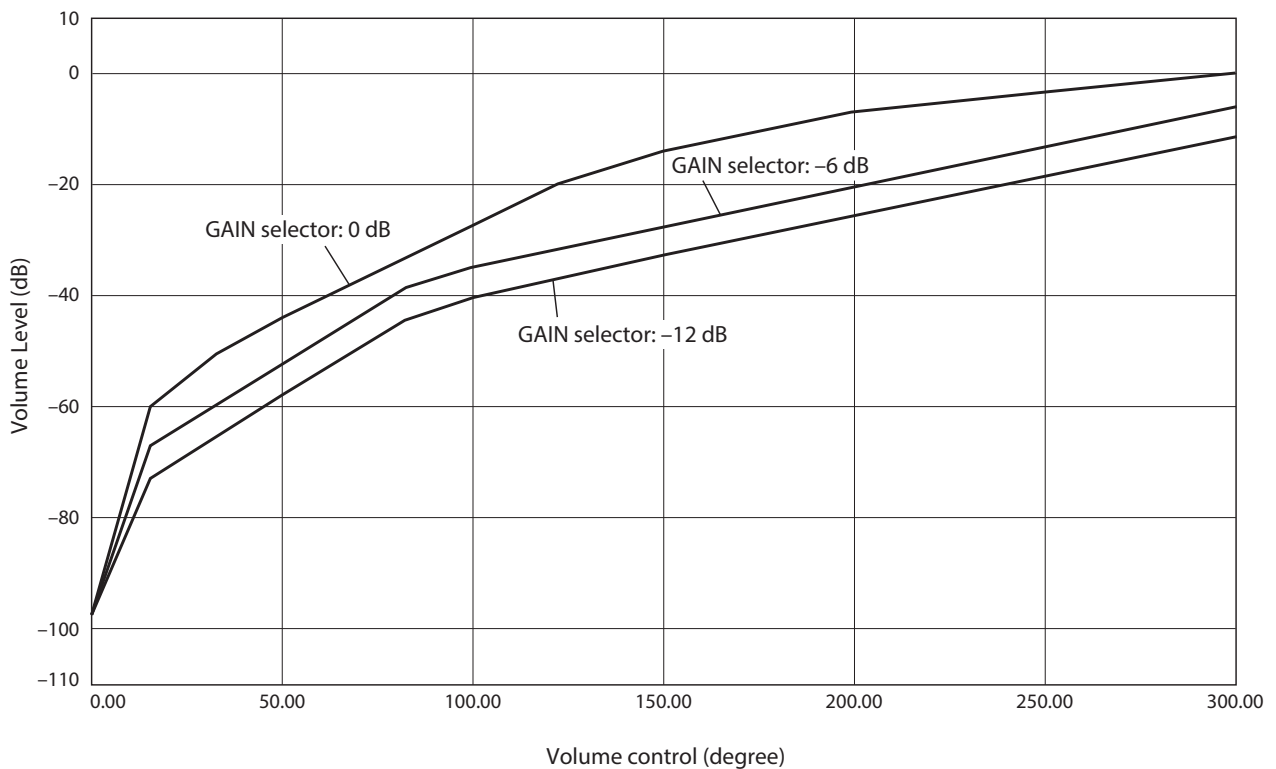
全高調波歪率 (PHONO)



周波数特性 (サブソニックフィルター)



ボリュームカーブ



困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合、下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。ヤマハ修理ご相談センターについては、別冊の「安全上のご注意」を参照してください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源スイッチを操作しても電源が入らない	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく差し込み直してください。	26
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）を受けた。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	26
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください。	26
音声が出ない	入出力ケーブルが正しく接続されていない。	ケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	20
	入力が正しく選択されていない。	フロントパネルの INPUT セレクター（またはリモコンの入力選択キー）で入力を選択し直してください。	28
	出力端子と OUTPUT の設定が合っていない。	出力端子と OUTPUT の設定を合わせてください。	28
音量が調節できない	入力ソースに EXT. DIRECT が選択されている。	接続機器側の音量を調節してください。または、EXT. IN 端子以外の端子に接続し入力ソースを切り替えてください。	20 28
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	再生機器が正しく接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	20

症状	原因	対策	参照 ページ
ノイズ音（ハム音）が出る	入出力ケーブルが正しく接続されていない。	ケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	20
	ターンテーブルのアースが GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の GND 端子に接続してください。	22
	バランス用とライン用ケーブルを、同一機器同士で同時に接続している。	バランス用とライン用ケーブルは、同一機器同士で同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。	21
BAL1/BAL2（バランス入力）端子に接続した機器の再生音が歪む	バランス入力端子の許容入力レベルを超えています。	接続する再生機器のバランス XLR 出力がアンバランス RCA 端子の 2 倍の場合は、端子の下にある ATTENUATOR スイッチを ATT.（- 6dB）に切り替えてください。	30
BAL1/BAL2（バランス入力）を選択したとき低音に立体感がない	極性が正しくない。	PHASE スイッチで極性を正しく設定してください。	14
レコードの再生音が小さい	フロントパネルの PHONO スイッチの設定が間違っている。	ターンテーブルのカートリッジの種類に合わせて、PHONO スイッチを MM または MC の位置に合わせてください。	29
リモコンが操作できない、または正常に動作しない	リモコンの操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30° 以内でリモコン操作してください。	18
	本体のリモコン受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明または本機の向きを変えてください。	18
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新しいものに交換してください。	18

索引

A

AC IN 端子	26
ATTENUATOR スイッチ	30
AUDIO MUTE スイッチ	31
AUTO POWER STANDBY スイッチ	13

B

BAL 1 端子	11
BAL 2 端子	11
BALANCE つまみ	31
BAL 端子	13
BASS つまみ	31

E

EXT.DIRECT スイッチ	29
EXT. IN 端子	23

G

GAIN セレクター	30
------------------	----

I

INPUT セレクター	28
-------------------	----

L

LINE 1 端子	13
LINE 2 端子	13
LINE 2 IN 端子	12
LINE 2 OUT (録音用) 端子	12

O

OUTPUT セレクター	28
--------------------	----

P

PHASE スイッチ	14
PHONES 端子	32
PHONO セレクター	29
PHONO 端子	22

R

REMOTE 端子	25
-----------------	----

S

SERVICE 端子	13
SIGNAL GND 端子	22
STANDBY/ON/OFF インジケータ	6
STANDBY/ON/OFF スイッチ	6
SUBSONIC FILTER スイッチ	30

T

TREBLE つまみ	31
TRIGGER 端子	24
TRIM セレクター	32

V

VOLUME つまみ	30
------------------	----

あ

アース端子	22
アウトプットセレクター	28
アッテネータースイッチ	30
アンバランス接続	15

い

インプットセレクター	28
------------------	----

え

エクスターナルイン端子	23
エクスターナルダイレクトスイッチ	29

お

オーディオミュートスイッチ	31
オートパワースタンバイスイッチ	13

け

ゲインセレクター	30
----------------	----

さ

サービス端子	13
サブウーファアの接続	23
サブソニックフィルター	30

し

シグナルグラウンド端子	22
-------------------	----

す

- スタンバイ / オン / オフインジケータ 6
- スタンバイ / オン / オフスイッチ 6

た

- ターンテーブルの接続 22
- ターンテーブルの入力調節 29

て

- 電源インジケータ 6
- 電源スイッチ 6
- 電源を入れる 6

と

- トリガー接続 24
- トリムセレクター 32
- トレブルつまみ 31

は

- バスつまみ 31
- バランス 1 端子 11
- バランス 2 端子 11
- バランス接続 14
- バランス端子 13
- バランスつまみ 31
- パワーアンプの接続 23

ふ

- フェーズスイッチ 14
- フォノ端子 22
- フォonz端子 32

へ

- ヘッドホンの接続 32

ほ

- ボリュームつまみ 30

ら

- ライン 1 端子 13
- ライン 2 端子 13
- ライン 2 アウト端子 12
- ライン 2 イン端子 12

り

- リモート接続 25
- リモコン受光部 18

ろ

- 録音機器の接続 22

